平 成 26 年 1 月 30 日	課長	課長補佐	係長	主任	審査者	設計者	検算

工　事　設　計　書

工　事　名　　平成26年度学校給食センター屋根等改修工事

工 事 場 所　　倉吉市 生田

一　　金　　　　円

（内消費税及び地方消費税額　　　　円）

工　事　概　要	起　工　理　由
・屋根の葺替え工事 ・鉄骨庇及び外壁塗装工事 ・ドライ床塗り替え工事	

現　場　説　明　書

一般的事項１

平成26年１月20日改正

１　仕様書の適用について

この契約において適用する仕様書は、特に定めのない限り『○○○○○工事共通仕様書』とする。（※記載例：『鳥取県土木工事共通仕様書』（平成24年１月24日付第201100158002号鳥取県県土整備部長通知））

２　法令等の遵守について

（１）　建設業法、労働安全衛生法等の各種関連法令を遵守し、法令に抵触する行為は行わないこと。

（２）　建設業からの暴力団排除の徹底について

ア　工事の施工に際し、暴力団等の構成員又はこれに準ずる者から不当な要求や妨害を受けた場合は、監督員に速やかにその旨を報告するとともに、警察に届出を行い、捜査上必要な協力を行うこと。

イ　この場合において、工程等を変更せざるを得なくなったときは、速やかに監督員に協議すること。

（３）　工事現場に配置する技術者等（技術者等とは、現場代理人、追加技術者、主任技術者及び監理技術者をいう。）は、建設業者と直接的かつ恒常的な雇用関係にあるものでなければならない。

３　下請関係の適正化について

（１）　この契約に係る工事の的確な施工を確保するため、下請契約を締結しようとする場合は「建設産業における生産システム合理化指針」（平成３年２月５日付建設省経構発第２号建設省建設経済局長通知）及びその趣旨に則り、優良な専門工事業者の選定、合理的な下請契約の締結、代金支払等の適正な履行,適正な施工体制の確立、下請における雇用管理等の指導等を行い同指針の遵守に努めること。

（２）　受注者は、100万円以上の下請契約を締結した場合は「建設工事の下請報告について」（平成20年３月28日付第200700193464号鳥取県県土整備部長通知）に基づき、下請施工体系図を提出しなければならない。

（３）　工事の一部を第三者に請け負わせる場合、又は工事に伴う交通誘導等の業務を第三者に委託する場合には、原則として市内に本店又は支店、営業所等を有する業者（以下「市内業者」という。）と契約すること。ただし、技術的に施工できる市内業者がない工事等を請け負わせ、又は委託する場合、あるいは市内業者で施工できても工程的に間に合わない等、特段の理由がある場合は、この限りでない。

（４）　建設業退職金共済制度への加入等

ア　建設業者は、建設業退職金共済制度（以下「建退共」という。）に加入すると共に、その建退共の対象となる労働者について証紙を購入し、当該労働者の共済手帳に証紙を貼付すること。ただし、下請を含むすべての労働者が、中小企業退職金共済制度、清酒製造業退職金共済制度、林業退職金制度のいずれかに既に加入済みで、建退共に加入することができないと認められる場合は、この限りでない。

イ　建設業者が下請契約を締結する際は、下請業者に対してこの制度の趣旨を説明し、原則として証紙を下請の延労働者数に応じて現物交付することにより、下請業者の建退共加入及び証紙の貼付を促進すること。なお、現物を交付することができない場合は、掛金相当額を下請代金中に算入することとし、契約書等に明記すること。

ウ　受注者は、工事現場に「建設業退職金共済制度適用事業主工事現場」の標識を掲示すること。

４　労働者の福祉向上について

（１）　建設労働者の適切な賃金水準の確保、社会保険等（雇用保険、健康保険及び厚生年金保険）への加入など、労働者の福祉向上に努めること。なお、健康保険等の適用を受けない建設労働者に対しても、国民健康保険等に加入するよう指導に努めること。

（２）　下請契約の締結に際しては、下請業者へ法定福利費を内訳明示した見積書（標準見積書という。）の提示を求め、提示された場合にはこれを尊重するとともに、社会保険等の法定福利費などの必要経費を適切に考慮するように努めること。

現　場　説　明　書

５　労働安全衛生の確保について

　労働災害のリスク低減のため、「建設工事における労働災害防止のためのリスクアセスメント等について」（平成23年９月30日付第201100099979号県土整備部長通知）に基づくリスクアセスメント等に積極的に取り組むこと。

６　建設資機材の使用について

（１）　工事に使用する資材については、「県土整備部リサイクル製品使用基準」（平成22年１月20日付第200900157785号県土整備部長通知）に基づくリサイクル製品がある場合は、原則これを使用すること。

（２）　リサイクル製品以外の工事に要する資材の使用順位は、次のとおりとする。

ア　県内産の資材がある場合は、県内産の資材を使用すること。

イ　県外産の資材を使用する場合は、県内に本社又は営業所、支店等を有する販売業者（以下「県内販売業者」という。）から購入した資材を使用すること。ただし、当該資材について県内販売業者がない場合は、この限りでない。

（３）　建設機械の使用について

ア　施工現場及びその周辺の環境改善を図るため、低騒音型・低振動型の建設機械を使用するよう努めること。

イ　工事現場で使用し、又は使用させる車両（資機材等の搬出入車両を含む）又は建設機械等の燃料として、地方税法（昭和25年法律第226号）に違反する軽油等（以下「不正軽油」という。）を使用しないこと。

　また、使用燃料の抜き取り検査を行う場合には、現場代理人がこれに立ち会うなど協力を行うとともに、不正軽油の使用が発見された場合には、当該燃料納入業者を排除するなどの是正措置を講じること。

（４）　ダンプトラック等による運搬について

ア　「土砂等を運搬する大型自動車による交通事故の防止等に関する特別措置法」（以下「法」という。）の目的に鑑み、法第12条に規定する団体の設立状況を踏まえ、同団体への加入車の使用を促進するよう努めること。

イ　積載重量制限を超えて工事用資機材等を積み込まず、また積み込ませないようにするなど違法運行を行わせないようにすること。違法運行を行っている場合は、早急に不正状態を解消する措置を講ずること。

７　リサイクルの促進について

　建設リサイクル法、「鳥取県県土整備部公共工事建設副産物活用実施要領」（平成22年９月13日付第201000087971号県土整備部長通知）に基づき建設副産物のリサイクル等に努めること。

８　消費税法及び地方消費税法の適正転嫁等について

　下請契約及び資材購入等において、消費税の円滑かつ適正な転嫁の確保のための消費税の転嫁を阻害する行為の是正等に関する特別措置法（平成25年法律第41号）で禁止された添加拒否等行為を行わないなど、適切な対応を行うこと。

９　その他

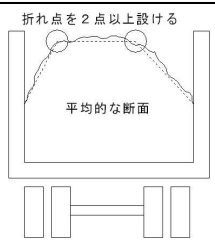
　受注者は、工事請負代金額500万円以上の工事について、受注、変更、訂正及び完成時10日以内（ただし、工事請負代金額が2,500万円未満の工事にあっては、受注・訂正時）に工事実績情報サービス（CORINS）に工事実績情報の登録を行い、登録内容確認書を印刷して発注者に提出すること。

現　場　説　明　書

特記事項１

仕様書	①　平成２６年　月　　日時点で最新の仕様書によること。 ※　上記年月日には、当該工事の起工決裁日を明記すること。
工程	①（他工事等との調整）ドライ床塗り替え工事については、設備機器取替他工事と関連するので、相互の連絡調整を密にすること。 ②部分完成、着工保留）　ドライ床塗り替え工事については、原則として学校の夏休み期間中とする。 ③（施工時間）　本工事の施工時間帯は、昼間施工（８：00～17：00）を見込んでいる。の施工時間は、　：　～　：　とする。 ④（施工時期選択制度）　この工事には、施工時期選択制度を適用する。工事完成期限は、　　　　　までとし、実工事期間は　　　日間とする。 　なお、契約締結日から着工日前日までの間に資材の搬入、仮設物の設置等の工事の着手を行ってはならない。 ~~⑤（鋼材の調達の遅れによる工期の延長）~~　この工事の工期には、鋼材調達期間として、○か月を見込んでいるが、受注者の責に帰することができない事由により鋼材の調達が遅れ、工期内に工事を完成することができない場合は、その理由を明示した書面により、発注者に工期の延長変更を請求することができる。
用地関係	~~①（用地、物件等未処理）~~　本工事区間の＿＿＿＿＿＿には＿＿＿＿＿＿＿＿があるので、監督員と打合せのうえ施工を行うこと。 　なお、＿＿＿＿＿頃＿＿＿＿＿＿＿＿の予定である。
支障物件	~~①埋設物等の事前調査）~~　工事に係る地下埋設物等の事前調査については、〔未調査・調査済み〕である。 ②（支障物件）　ドライ床塗り替え工事の施工に当って、厨房設備機器が支障となっているが、移動可能な機器は移動して作業を行う。 ~~③（立木の置き場所）~~　工事用地内の立木は伐採し、＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿に置くこと。
公害対策	①（低騒音型・低振動型建設機械）　本工事のうち施工箇所：　　　　　　　については、特に生活環境を保全する必要があるので、下記工種の施工に当たっては、低騒音型・低振動型建設機械の指定に関する規定（国土交通省告示。平成13年４月９日改正）に基づき指定された建設機械を使用するものとする。 　該当工種：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿、施工機械：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
安全対策	①（交通安全施設等）　一般交通等に支障を及ぼさないよう十分注意して施工すること。なお、交通整理の配置人員及び必要日数として、以下のとおり見込んでいるが、警察等との協議により変更が生じた場合は別途協議すること。 　交通誘導員Ａ　　　人（交替要員〔有り・無し〕　　日　合計　　人 　交通誘導員Ｂ　　　人（交替要員〔有り・無し〕　　日　合計　　人 　警備業法に規定する警備員を配置する場合における交通誘導員Ａ、交通誘導員Ｂの定義は次のとおりとする。 　交通誘導員Ａとは、警備業法第２条第４項に規定する警備員であり、警備員等の検定等に関する規則第１条第４号に規定する交通誘導警備業務に従事する者で、交通誘導警備業務に係る１級検定合格警備員又は２級検定合格警備員をいう。また、交通誘導員Ｂとは、警備業法第２条第３項に規定する警備業者の警備員で交通誘導員Ａ以外の交通の誘導に従事する者をいう。 　なお、自社の従業員で交通整理を行う場合は、警備業法第14条第１項に規定する以外の者を配置し、安全教育、安全訓練等を十分に行うこと。この場合においては、交通誘導員Ｂを配置しているものとみなす。
工事用道路	①（農地の一時転用について）　本工事を施工するために必要な仮設道路等を農地に設置する場合は、農地の一時転用が必要である。そのため、受注者は、「公共事業の施行に伴う附帯施設の設置に係る一時転用の取扱いについて」（平成24年10月15日付第201200109101号経営支援課長通知）に基づき、着手前に本工事が公共事業であることが証明された報告書を所轄農業委員会へ提出すること。
仮設物	①工事車両の駐車スペース等）　担当部署と協議の上、バリケード等で駐車スペースを区画する。 　又、必要に応じて仮囲いを設置する。
排水・濁水処理	~~①（濁水処理）~~　工事で発生する濁水に対しては、濁水処理を行うこと。なお、図示した場合は、設計図書によることとする。

現　場　説　明　書

特記事項２

建設副産物の処理

~~【建設発生土（処理）】~~

~~①（他工事等流用）~~　建設発生土は、____市・町・村______地内の________工事現場に運搬（片道運搬距離____km）とするものとする。

~~②（建設技術センター）~~　建設発生土は____市・町・村______地内のセンター事業所に運搬（片道運搬距離____km)とするものとする。なお、処理費として１ｍ^{3}当たり____円をセンターに支払うこと。
　センター事業所へ搬出する土砂の土質は、各事業所が指定している土質性状同等以上とすること。（土質性状　（記載例）砂質土、コーン指数　300kN/㎡以上）

~~③（自由処分）~~　建設発生土は自由処分とし、片道運搬距離____km見込んでいる。

【コンクリート塊・アスファルト塊・建設発生木材（処理）】

④（分別解体等）　コンクリート塊、アスファルト塊、建設発生木材は、現場内において分別解体するものとする。その方法は、別表のとおりとする。なお、その費用を下記のとおり見込んでいる。
　コンクリート塊　１ｍ^{3}当り________円
　アスファルト塊　１ｍ^{3}当り________円
　建設発生木材　　１ｍ^{3}当り________円

~~⑤（他工事等流用）~~〔Co塊・__________〕は、____市・町・村______地内________工事現場に運搬（片道運搬距離____km）するものとする。

~~⑥（再資源化施設へ搬出）~~コンクリート塊、アスファルト塊、建設発生木材等は、再生資源として、下記の再資源化施設への搬出を見込んでいる。これは、他の施設へ搬出を妨げるものではないが搬出先を変更する場合は理由を付して協議を行うこと。
　再資源化施設業者と書面による委託契約を行うとともに、運搬車両ごとにマニフェストを発行するものとする。
　なお、再資源化施設へ搬出が完了したときは、書面により報告すること。
（施設の名称・受入れ費用）
　コンクリート塊　倉吉市______地内の________（運搬距離____km）、費用１ｔ当り__________円
　アスファルト塊　倉吉市______地内の________（運搬距離____km）、費用１ｔ当り__________円
　建設発生木材　______市・町・村____地内の____（運搬距離____km）、費用１㎥当り__________円
　その他（　　）　____市・町・村____地内の______（運搬距離____km）、費用１ｔ当り__________円
（受入れ時間帯）　８時～17時（平日）
（受入れ条件）
　ア　路盤材、土砂、金属片等が混入していないこと。
　イ　コンクリート塊、アスファルト塊の径は、それぞれ____mm以下____mm以下であること。
　ウ　建設発生木材に関しては、泥等の付着がなく、径______cm以下、長さ______ｍ以下であること。
　エ　２次公害発生のおそれのある物質（廃油等）を含まないこと。

~~⑦（木材市場等への売却）~~　建設発生木材は______市・町・村______地内の________への搬出（片道運搬距離____km）を想定し________円を見込んでいる。これは、他の木材市場等への売却を妨げるものではないが、売却先を変更する場合の理由を付して協議すること。

⑧（最終処理等）　ガラ・廃プラ材については、琴浦町中尾地内の産業廃棄物処理場への搬出（片道運搬距離20.8km）を想定し、その費用として１m3当り7,000円から7,500円を見込んでいる。これは、他の施設へ搬出を妨げるものではないが、搬出先を変更する場合は協議を行うこと。

⑨（産業廃棄物の処理に係る税）　産業廃棄物の処理に係る税に相当する額を　1,000円/t　見込んでいる。

⑩（建設発生木材の出来形数量）　建設発生木材の運搬量、搬出量は出来形数量に応じて設計変更を行う。そのため、次のとおり数量管理を行うこと。

工　種	項　目	規　格	摘　要
建設発生木材運搬量	現場において運搬車の計測を行うこと。 平均的な１断面を計測。 計測に当たっては､頂部に最低２箇所の折れ点を設けること。 断面積に荷台の延長を乗じて体積を算定する。	運搬車全数の測定を行うこと。また、10台に１台の割合で写真管理を行うこと。 ただし、搬出台数が10台に満たない場合は、２台以上写真管理を行うこと。	折れ点を２点以上設ける 平均的な断面
建設発生木材搬出量	マニフェスト又は伝票管理を行うこと。	運搬車全数の管理を行うこと。	伝票は処分業者が発行したものでなければならない。

⑪（マニフェスト）　産業廃棄物の運搬又は処分を他人に委託するときは、廃棄物の処理及び清掃に関する法律に基づきマニフェストを作成すること。ただし、一般廃棄物や有価物は不要。

現　場　説　明　書

特記事項３

建設副産物の使用	①（建設発生土の使用）　＿＿工事から［当該工事運搬・相手方運搬］の建設発生土を受入れ、使用箇所：＿＿に使用する。 ②（再生資材の使用） １）　Co雑割材は、＿＿工事から運搬し、使用箇所：＿＿に使用する。 ２）　アスファルト・コンクリート切削殻等は、＿＿工事から運搬し、使用箇所：＿＿に使用する。 ３）　・再生クラッシャーラン［規格：　　］は、使用箇所：＿＿に使用する。 ・再生コンクリート砂［規格：RS-　　］は、使用箇所：＿＿に使用する。 ４）　再生加熱アスファルト混合物［規格：　　］は、使用箇所：＿＿に使用する。 ５）　その他再生資材［資材名：　　］［規格：　　］は、使用箇所：＿＿に使用する。
その他	①（境界杭・境界標）　本工事における道路上の全ての境界標は、必ず管理を行うこと。 ②（工事成績評定）　本工事は、災害等の初期活動で緊急かつ迅速な対応が不可欠である緊急応急工事に〔該当する・該当しない〕ため、工事評定の〔対象とする・対象としない〕。（※災害復旧工事に適用） ③（技能士常駐）　本工事には、下記のとおり鳥取県土木工事共通仕様書に基づく技能士常駐対象工種が含まれており、該当工種の作業期間は、技能士が工事現場に常駐しなければならない。 １）　技能士種別：内外装板金作業技能士、該当工種：屋根及びとい工、仕様書根拠：建築工事標準仕様1.5.2 ２）　技能士種別：建築塗装作業技能士、該当工種：塗装工、仕様書根拠：建築工事標準仕様1.5.2 ３）　技能士種別：シーリング防水工事作業技能士、該当工種：防水工、仕様書根拠：建築工事標準仕様1.5.2 ④（寒中コンクリート）　本工事は、寒中コンクリートとして施工を行わなければならない期間があるので、適正に実施すること。なお、寒中コンクリートの養生費用については、「寒中コンクリートの養生費用について」（平成23年12月７日付第201100123529号県土整備部長通知）に基づいて処理することとし、設計変更の対象とする。 ④　周辺住民及施設使用者への安全を十分に配慮して仮設計画書を作成し監督員と協議の上、工事を進めること。 ⑤　施設を使用しながらの工事のため、各工事の施工日程及び作業時間は担当者および監督員と協議調整して進めること。又、安全対策に配慮すること。 ⑥　屋根塗装改修工事に当たり高所作業であり十分な安全対策を図ること。 ⑦　毎月末の工程進捗状況報告書を監督員に提出すること。

※　明示する項目を＿＿部分に記入又は追記し、不要部分は——で削除して使用すること。

［ 平成26年度学校給食センター屋根等改修工事 ］

記 号	名　　称	規　格　寸　法	数　量	単位	単　価	金　額	適　用
A	**建　　築　　工　　事**		1	式			
B	**電　気　設　備　工　事**		1	式			
	直接工事費　　計						
	共通費						
	共通仮設費		1	式			
	現場管理費		1	式			
	一般管理費等		1	式			
	共通費　　　計						
	工事価格　　計						
	消費税等相当額						
	総　合　計						

甲種	名　　称	品種	形状寸法	数　量	単　位	単　価	金　額	摘　　要
A	**建　築　工　事**							
A1	直 接 仮 設 工 事 (1)			1	式			
A2	直 接 仮 設 工 事 (2)			1	式			
A3	撤　去　工　事　(1)			1	式			
A4	産業廃棄物処分費			1	式			
A5	屋根葺き替え工事 (1)			1	式			
A6	屋根葺き替え工事 (2)			1	式			
A7	防　水　工　事			1	式			
A8	左 官 工 事			1	式			
A9	塗 装 工 事			1	式			
A10	ドライ床塗り替え工事			1	式			
A11	雑　工　事			1	式			
	A　直接工事費　計							

	名　　称	品種	形状寸法	数　量	単　位	単　価	金　額	摘　　要
A1	直接仮設工事(1)							
	単管本足場		建枠 900x1700 60日 修理費含む　運搬費共 10m未満 2階建て 建築面積 2,000㎡	267.0	㎡			
	同　上　安全手摺り		単管本足場用　60日 修理費含む　運搬費共 建築面積 2,000㎡	106.0	m			
	枠組本足場		建枠 900x1700 60日 修理費含む　運搬費共 12m未満 2階建て 建築面積 2,000㎡	1,002.0	㎡			
	同　上　安全手摺り		枠組本足場用　60日 修理費含む　運搬費共 建築面積 2,000㎡	481.0	m			
	ﾌﾞﾗｹｯﾄ足場		枠組足場用　60日 修理費含む　運搬費共	276.0	m			
	同　上　安全手摺り		枠組本足場用　60日 修理費含む　運搬費共 建築面積 2,000㎡	276.0	m			
	単管一本足場 (ｱｽﾍﾞｽﾄ対策用)		10m未満　30日 修理費含む　運搬費共	365.0	㎡			
	(越屋根) 単管一本足場 (ｱｽﾍﾞｽﾄ対策用)		10m未満　30日 修理費含む　運搬費共	158.0	㎡			
	(玄　関) 枠組本足場		建枠 900x1700 60日 修理費含む 運搬費共 12m未満 1階建て 建築面積 300㎡	85.0	㎡			
	同上　安全手摺り		枠組本足場用　60日 建築面積 300㎡　運搬費共	23.6	m			
	(玄　関) 単管一本足場 (ｱｽﾍﾞｽﾄ対策用)		10m未満　30日 修理費含む　運搬費共	23.2	㎡			
	登り桟橋		単管足場用	28.8	m			
	荷揚げ構台		枠組み足場　3.6*3.6*H8.0　安全手摺り共	2	ヶ所			
	養生ｼｰﾄ張り (外部足場)		防炎Ⅱ類	1,269.0	㎡			
	(玄　関) 養生ｼｰﾄ張り (外部足場)		防炎Ⅱ類	85.0	㎡			
	養生ｼｰﾄ張り (ｱｽﾍﾞｽﾄ対策用)			523.0	㎡			
	(玄　関) 養生ｼｰﾄ張り (ｱｽﾍﾞｽﾄ対策用)			23.2	㎡			
	小　計							

	名　　称	品種	形状寸法	数　量	単　位	単　価	金　額	摘　　要
A2	直 接 仮 設 工 事 (2)							
	ﾌﾟﾗｯﾄﾎｰﾑ ﾛｰﾘﾝｸﾞﾀﾜｰ（塗装改修）		H=3M以内 20日　安全手摺り、運搬費共	1.0	基			
	ﾌﾟﾗｯﾄﾎｰﾑ ﾛｰﾘﾝｸﾞﾀﾜｰ（塗装改修）		H=5M以内 20日　安全手摺り、運搬費共	1.0	基			
	養生(塗床改修)		塗膜防水程度　　厨房機器養生共	1,183.0	㎡			
	（外部足場周辺） 養生(外壁改修)		塗装塗替え程度	1,215.0	㎡			
	（ﾌﾟﾗｯﾄﾎｰﾑ・玄関・越屋根） 養生(外壁改修)		塗装塗替え程度	186.0	㎡			
	整理清掃後片付け		塗膜防水程度	1,183.0	㎡			
	〃		（ﾌﾟﾗｯﾄﾎｰﾑ・玄関・越屋根） 塗装塗替え程度	186.0	㎡			
	〃		（外部足場廻り）	470.0	㎡			
	計							

	名　　称	品種	形状寸法	数　量	単　位	単　価	金　額	摘　　要
A3	撤　去　工　事　(1)		※ 集積共					
	軒先　カッター剪り		銅板ｔ0.4　糸巾150 屋根材共（ｱｽﾍﾞｽﾄ含有ﾚﾍﾞﾙⅢ）	156.0	m			
	切妻　巴瓦　　　撤去		（ｱｽﾍﾞｽﾄ含有ﾚﾍﾞﾙⅢ）	91.4	m			
	棟　　　瓦　　　撤去		（ｱｽﾍﾞｽﾄ含有ﾚﾍﾞﾙⅢ）	89.3	m			
	雪止め金具　　　撤去		L-40*40*3 ドブ漬け亜鉛メッキ	270.0	m			
	ﾍﾞﾝﾁﾚｰﾀ　撤去		φ1100　　（再利用）	3	ヶ所			
	ｻｯｼ廻り ｼｰﾘﾝｸﾞ　撤去		10*10　ﾎﾟﾘｻﾙﾌｧｲﾄﾞ　2成分	588.0	m			
	外壁ｻｲﾃﾞｨﾝｸﾞ ｼﾞｮｲﾝﾄ ｼｰﾘﾝｸﾞ　撤去		10*10　ﾎﾟﾘｻﾙﾌｧｲﾄﾞ　2成分	795.0	m			
	金属取合い ｼｰﾘﾝｸﾞ　撤去		15*10　ﾎﾟﾘｻﾙﾌｧｲﾄﾞ　2成分	150.0	m			
	玄関　壁ﾌｯ素鋼板ｔ0.8 ﾊﾟﾈﾙ　ｼﾞｮｲﾝﾄｼｰﾘﾝｸﾞ		10～15　ﾎﾟﾘｻﾙﾌｧｲﾄﾞ（PS-2）	119.0	m			
	撤去材　荷下しｸﾚｰﾝ費		４ｔ車	1.0	日			
	撤去材運搬		DID区間無し22.5km以下　ﾊﾞｯｸﾎｳ0.8m3 機械積込 ﾀﾞﾝﾌﾟ 10t積 ｽﾚｰﾄ瓦（ｱｽﾍﾞｽﾄ含有）	2.8	m3			
	〃		DID区間無し 27.5km以下 人力積込　ﾀﾞﾝﾌﾟ　2t積　　廃ﾌﾟﾗ材	0.9	m3			
	〃		DID区間無し 27.5km以下 人力積込　ﾀﾞﾝﾌﾟ　2t積　　金属材	0.1	m3			
	計							

	名　　称	品種	形状寸法	数　量	単　位	単　価	金　額	摘　　要
A4	産業廃棄物処分費							
	産業廃棄物処分費		処分費　ｽﾚｰﾄ瓦　（ｱｽﾍﾞｽﾄ含有ﾚﾍﾞﾙⅢ）	2.8	m3			
	産業廃棄物処分費		処分費　ｼｰｼﾝｸﾞ材ほか廃ﾌﾟﾗ	0.9	m3			
	小　計							

	名　　称	品種	形状寸法	数　量	単　位	単　価	金　額	摘　　要
A5	屋根葺き替え工事 (1)		＊　材工					
	屋　根 遮熱鋼板　横張り		ｶﾗｰGL鋼板　ｔ0.35 ＋ 硬質ｳﾚﾀﾝﾌｫｰﾑ ｶﾊﾞｰ工法横張り　勾配3.5/10	1,774.0	㎡			
	粘着ｺﾞﾑｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞ張り		21.4kg	1,774.0	㎡			
	下地構造用合板張り		ｔ12	1,774.0	㎡			
	谷樋　ｶﾗｰGL鋼板		ｔ0.4　糸巾450	33.5	m			
	軒先　ｶｯﾀｰ剪り		（撤去工事による） 石綿ｽﾚｰﾄ瓦　ｔ6 ＋ 軒先銅板 t0.4					
	軒先　ｶﾗｰGL鋼板		ｔ0.4　　　　　参考：軒先唐草60	156.0	m			
	同上　　桟木		杉一等　1-30*100	156.0	m			
	巴瓦　撤去		（撤去工事による） 石綿ｽﾚｰﾄ　巴瓦					
	ケラバ包み　ｶﾗｰGL鋼板		ｹﾐｶﾙ面戸　共 ｔ0.4　　　　　参考：ケラバ包み50	91.4	m			
	同上　　捨て木		杉一等　1-30*40	91.4	m			
	棟瓦　撤去		（撤去工事による） 石綿ｽﾚｰﾄ　棟瓦					
	棟包み　ｶﾗｰGL鋼板		ｹﾐｶﾙ面戸　共 ｔ0.4　　　　　参考：棟包み260	89.3	m			
	同上　　捨て木		杉一等　2-30*100	89.3	m			
	壁水切り　ｶﾗｰGL鋼板		ｹﾐｶﾙ面戸　共 ｔ0.4　　　　　参考：壁水切105*70	63.5	m			
	同上　　捨て木		杉一等　1-30*90	63.5	m			
	雪止めアングル　撤去		（撤去工事による） L-40*40*3 ドブ漬け亜鉛メッキ　千鳥					
	雪止めアングル		ウイング　足SUS304　　参考：BYD3Q0	270	ヶ所			
	小　計							

	名　　称	品種	形状寸法	数　量	単　位	単　価	金　額	摘　　要
A6	屋根葺き替え工事（2）							
	ﾍﾞﾝﾁﾚｰﾀ　雨押さえ		ｶﾗｰｱﾙﾐﾒｯｷ鋼板ｔ0.6　　2.8㎡/ヶ所 1200x1200 H400（既存上に同材新設）	3	ヶ所			
	ﾍﾞﾝﾁﾚｰﾀφ1100　撤去再取付		（撤去工事による）					
	軒樋　不陸調整		ｶﾗｰ塩ビ製 W140*H120（取外し再取付） ﾄﾞﾌﾞ漬亜鉛メッキ受金物（不陸調整）	126.0	m			
	運搬費			1	式			
	荷揚げ費			1	式			
	小　計							

	名　　称	品種	形状寸法	数　量	単　位	単　価	金　額	摘　　要
A7	防　水　工　事		＊　材工					
	ｻｯｼ廻り　ｼｰﾘﾝｸﾞ		10～15　ﾎﾟﾘｻﾙﾌｧｲﾄﾞ (PS-2)	588.0	m			
	ｻｯｼ廻り　ｼｰﾘﾝｸﾞ　撤去		(撤去工事による)					
	外壁ｻｲﾃﾞｨﾝｸﾞ　ｼﾞｮｲﾝﾄｼｰﾘﾝｸﾞ		破風板・鼻揃え共 10～15　ﾎﾟﾘｻﾙﾌｧｲﾄﾞ　(PS-2)	795.0	m			
	ｼﾞｮｲﾝﾄｼｰﾘﾝｸﾞ　撤去		(撤去工事による)					
	金属取合い　ｼｰﾘﾝｸﾞ		鉄部、笠木、換気口ほか 10以下　ﾎﾟﾘｻﾙﾌｧｲﾄﾞ　(PS-2)	150.0	m			
	金属取合い　ｼｰﾘﾝｸﾞ　撤去		鉄部、笠木、換気口ほか (撤去工事による)					
	ｹﾗﾊﾞ包み・壁水切り　ｼｰﾘﾝｸﾞ		変成ｼﾘｺﾝ (ﾉﾝﾜｰｷﾝｸﾞ)	247.0	m			
	玄関　壁ﾌｯ素鋼板ｔ0.8 ﾊﾟﾈﾙ　ｼﾞｮｲﾝﾄｼｰﾘﾝｸﾞ		10～15　ﾎﾟﾘｻﾙﾌｧｲﾄﾞ (PS-2)	119.0	m			
	ﾊﾟﾈﾙ　ｼﾞｮｲﾝﾄｼｰﾘﾝｸﾞ　撤去		(撤去工事による)					
	小　計							

	名　　称	品種	形状寸法	数　量	単　位	単　価	金　額	摘　　要
A8	左 官 工 事		＊　材工					
	(左　官　工　事)							
	壁　吹き付けﾀｲﾙ		ｺﾝｸﾘｰﾄ打ち放し面 ﾄｯﾌﾟｺｰﾄ吹き付け (一部中吹)	57.7	㎡			
	同上　　下地調整		RB種	57.7	㎡			
	同上　　水洗い		高圧洗浄　10～15Mpa	57.7	㎡			
	小　計							

	名　　称	品種	形状寸法	数　量	単　位	単　価	金　額	摘　　要
A9	塗 装 工 事		＊　材工					
	外壁ｻｲﾃﾞｨﾝｸﾞ（押出成形ｾﾒﾝﾄ板） ｱｸﾘﾙ系吹付けﾀｲﾙ		参考：ﾚﾅﾗｯｸ水性ｺﾝﾎﾟｳﾚﾀﾝ 塗替え仕様 ｼｰﾗｰ：ﾐﾗｸｼｰﾗｰEPO共	1,095.0	㎡			
	同上　　下地調整		下地調整 RB種	1,095.0	㎡			
	同上　　水洗い		高圧洗浄　10～15Mpa	1,095.0	㎡			
	軒天ｹｲｶﾙ板　EP塗り		工程B種（見上） 下地調整 RB種	144.0	㎡			
	同上　　水洗い		高圧洗浄　10～15Mpa	144.0	㎡			
	破風板・鼻隠し ｱｸﾘﾙ系吹付けﾀｲﾙ		参考：ﾚﾅﾗｯｸ水性ｺﾝﾎﾟｳﾚﾀﾝ 塗替え仕様 ｼｰﾗｰ：ﾐﾗｸｼｰﾗｰEPO共	78.0	㎡			
	同上　　下地調整		下地調整 RB種	78.0	㎡			
	同上　　水洗い		高圧洗浄　10～15Mpa	78.0	㎡			
	ﾌﾟﾗｯﾄﾎｰﾑ柱梁ほか　鉄部 変成ｴﾎﾟｷｼ樹脂塗り		（ﾌﾞﾚｰｽ・鋼製建具 共） JIS K 5659　2回塗り（B種）	118.0	㎡			
	同上　錆止め塗料塗り		ﾒｯｷ鋼面 工程B種 現場１回塗り ｴﾎﾟｷｼ樹脂ﾌﾟﾗｲﾏｰ 屋外	118.0	㎡			
	同上　　下地調整		鉄面　RB種	118.0	㎡			
	玄関　ﾌｯ素鋼板 変成ｴﾎﾟｷｼ樹脂塗り		（壁ﾊﾟﾈﾙ 共） JIS K 5659　2回塗り（B種）	29.4	㎡			
	同上　錆止め塗料塗り		ﾒｯｷ鋼面 工程B種 現場１回塗り ｴﾎﾟｷｼ樹脂ﾌﾟﾗｲﾏｰ 屋外	29.4	㎡			
	同上　　下地調整		ﾒｯｷ鋼面　RB種	29.4	㎡			
	同上　　水洗い		高圧洗浄　10～15Mpa	29.4	㎡			
	玄関　天井ｽﾊﾟﾝﾄﾞﾚﾙ 水洗い		高圧洗浄　10～15Mpa	23.9	㎡			
	小　計							

	名　　称	品種	形状寸法	数　量	単　位	単　価	金　額	摘　　要
A10	**ドライ床塗り替え工事**		＊　材工					
	床　抗菌祭配合厚膜型 ｴﾎﾟｷｼ樹脂系塗床仕上げ		防滑工法　　　　参考：ｹﾐｸﾘｰﾄE-MR	798.0	㎡			
	〃 〃		塗膜浮き部分ほか下地補修の必要な部分 ﾍﾟｰｽﾄ防滑工法　　参考：ｹﾐｸﾘｰﾄE-MR	88.0	㎡			
	床　　下地調整		一部浮き部分は塗膜撤去 全面サンダー掛け（下地モルタル）	886.0	㎡			
	巾木　抗菌祭配合厚膜型 ｴﾎﾟｷｼ樹脂系塗床仕上げ		H=300 平滑仕上げ　　　　参考：ｹﾐｸﾘｰﾄE-MR	245.0	m			
	巾木　下地調整		一部浮き部分は塗膜撤去 全面サンダー掛け（下地モルタル）	73.5	㎡			
	床切込み部　抗菌祭配合厚膜型 ｴﾎﾟｷｼ樹脂系塗床仕上げ		H=120 平滑仕上げ　　　　参考：ｹﾐｸﾘｰﾄE-MR	71.7	m			
	巾木　下地調整		一部浮き部分は塗膜撤去 全面サンダー掛け（下地モルタル）	10.8	㎡			
	設備機器移動費			1	式			
	小　計							

	名　　称	品種	形状寸法	数　量	単　位	単　価	金　額	摘　　要
A11	雑　工　事							
	機械室表示板　塗装改修 変成ｴﾎﾟｷｼ樹脂塗り		JIS K 5659　2回塗り（B種）下地調整共 300*600　塗り替え　文字共　（撤去再取付）	6	枚			
	消化器BOX　塗装改修 変成ｴﾎﾟｷｼ樹脂塗り		JIS K 5659　2回塗り（B種）下地調整共 500*750*250　塗り替え 文字共（撤去再取付）	1	ヶ所			
	機械室屋上ガス給湯機 塗装改修 変成ｴﾎﾟｷｼ樹脂塗り		鋼板　450*650*H1500 JIS K 5659　2回塗り（B種）下地調整共	1	ヶ所			
	縦樋養生管　塗装改修 変成ｴﾎﾟｷｼ樹脂塗り		鋼管 φ100*3.2　L=1200 JIS K 5659　2回塗り（B種）下地調整共	6	ヶ所			
	機械設備　通気管ほか 変成ｴﾎﾟｷｼ樹脂塗り		鋼管 φ32 JIS K 5659　2回塗り（B種）下地調整共	6.6	m			
	基礎ﾓﾙﾀﾙ 水洗い補修		ｸﾗｯｸ処理共 汚れ部分付着物除去共	161.0	㎡			
	ｼｬｯﾀｰBOX 変成ｴﾎﾟｷｼ樹脂塗り		JIS K 5659　2回塗り（B種）下地調整共 4100*550*450　塗り替え（撤去再取付）	4	ヶ所			
	計							

甲種	名　　称	品種	形状寸法	数　量	単　位	単　価	金　額	摘　　要
B	**電気設備工事**							
B1	照明器具ほか 撤去取付工事			1	式			
	下請け経費			1	式			
	B　直接工事費　計							

	名　　称	品種	形状寸法	数　量	単　位	単　価	金　額	摘　　要
B1	照明器具ほか 撤去取付工事		※集積共					
	厚鋼電線管(G) 取外し		(28) 再使用する	78	m			
	厚鋼電線管(G) 取付け		(28) 再使用品 (金具取替え)	78	m			
	ｱｳﾚｯﾄﾎﾞｯｸｽ　撤去		(28) 再使用品 (金具取替え)	6	個			
	ｱｳﾚｯﾄﾎﾞｯｸｽ　撤去		露出型　FL40W×1程度　(再利用品)	6	個			
	照明器具　撤去		露出型　FL40W×1程度　(再利用する)	10	台			
	照明器具　取付		露出型　FL40W×1程度　(再利用品)	10	台			
	小　計							

甲種	名　　称	品種	形状寸法	数　量	単　位	単　価	金　額	摘　　要
C	**共通仮設費（積み上げ分）**							
	仮囲い		H=2.0m　t=1.2mm w=500 設置、撤去、運搬	126.0	m			
	C　直接工事費　計							

平成26年度 学校給食センター屋根等改修工事

図面リスト

図面番号	図面名称	縮尺
	［建築図］	
A－1	表紙・図面リスト	——
A－2	特記仕様書（1）	——
A－3	特記仕様書（3）	——
A－4	特記仕様書（4）	——
A－5	配置図・附近見取り図	1:300
A－6	1階平面図	1:200
A－7	2階平面図	1:200
A－8	屋根伏せ図　（撤去図）	1:200
A－9	屋根伏せ図　（改修図）	1:200
A－10	立面図　（撤去図）	1:200
A－11	立面図　（改修図）	1:200
A－12	矩計図（1）（既存・撤去図）	1: 30
A－13	矩計図（2）（既存・撤去図）	1: 30
A－14	矩計図（1）（改修図）	1: 30
A－15	矩計図（2）（改修図）	1: 30
A－16	部分詳細図	1: 10
E－01	1階照明設備平面図	1:150

訂正		

(有) 沢田建築設計事務所
1級建築士事務所 登録 鳥取県第25-201号 1級建築士登録 第188531号 中野 充千俊

日付	14. 01. .	工事名	平成26年度 学校給食センター屋根等改修工事 **工事設計図**	縮尺	／	図面番号	A 01 ／ 17
設計	所長 担当 製図	図面名	表紙・図面リスト				

建築工事仕様書

Ⅰ．工事概要

1．工事場所　倉吉市 生田 ６９３－１
2．敷地面積　6,556.0 ㎡
3．地域地区　都市計画地域（ ⊙内 ・外 ） ~~市街化調整区域~~
　　　　　　用途地域等　（ 指定なし ）
4．建物概要

番号	名称	工事種別	構造	階数	建築面積(㎡)	延べ面積(㎡)
	学校給食センター棟	改修	鉄骨造	2	1,741.4	1,999.7
	ＬＰＧ庫	既存	ＣＢ造	1	38.1	38.1

Ⅱ．建築工事仕様

1．共通仕様

（１）　図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房官庁営繕部制定「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）（平成２２年版）」（以下、「標準仕様書」という。）による。ただし、アスベスト成形板の処理等は、国土交通省官房官庁営繕部制定「公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）（平成２２年版）」（以下「改修標準仕様書」という。）による。
（２）　請負者は完了検査（中間検査含む）の検査には、特定行政庁（建築主事等）が求める検査に必要な資料等（報告書等）を用意すること。
（３）　電気及び機械設備工事を本工事に含む場合、電気及び機械設備工事はそれぞれの工事仕様書を適用する。

2．特記仕様

（１）　項目は番号に○印のついたものを適用する。
（２）　特記事項は⊙印のついたものを適用する。
　　⊙印のつかない場合は、※印のついたものを適用する。
　　⊙印と※印のついた場合は共に適用する。
（３）　項目に記載の（　　）内表示番号は、標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。［　　］内表示番号は、改修標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を表す。
（４）　Ｇ印は、「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律」（以下「グリーン購入法」という。）の特定調達品目を示す。判断の基準は「環境物品等の調達の推進に関する基本方針（平成２２年２月）」（環境省のホームページからダウンロード可能）による。
（５）　標準仕様書で「特記がなければ、」以降に具体的な材料・品質性能・工法・検査方法等を明示している場合において、それらが関係法令の改正等により（条例を含む）抵触する場合には、関係法令等の遵守（１．１．１３）の規定を優先する。
（６）　材料及び製造所等の記載は順不同である。

章		項目	特記事項

① 一般共通事項

① 適用基準等
※　建築工事標準詳細図　国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課監修（平成２２年版）（以下「標準詳細図」という）
※　建築工事監理指針（上巻・下巻）　国土交通省大臣官房官庁営繕部監修（平成２２年版）
※　工事写真の撮り方（改訂第二版）建築編　建設大臣官房官庁営繕部監修
⊙　公共建築改修工事標準仕様書（平成２２年度版）
・
・

② 官公庁その他への手続（1.1.3）
工事の施工に伴い必要な官公署、その他への手続き、検査並びにその費用は、本工事請負者の負担とする

3 電気保安技術者（1.3.3）
工事現場におく電気保安技術者は、鳥取県総務部営繕工事自家用電気工作物保安規定第５条に定める工事を補佐し、当該工事の工事期間中自家用電気工作物の保安の業務を行うものとする。

4 工事安全計画書（1.3.7）
建築工事安全施工技術指針及び建設公衆災害防止対策要綱を参考に、工事安全計画書を監督員に提出する

⑤ 発生材の処理等（1.3.8）
・　引き渡しを要するもの（　　　）
・　現場において再利用を図るもの（　　　）
・　再生資源化を図るもの
　・　コンクリート塊　・　アスファルトコンクリート塊　・　建設発生木材

⑥ 環境への配慮（1.4.1）
化学物質を放散させる建築材料等
本工事の建物内部に使用する建築材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有すると共に、次の１）から５）を満たすものとする
１）合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、ＭＤＦ、パーティクルボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板、仕上げ塗材及び壁紙はホルムアルデヒドを放散させないか、放散が極めて少ないものとする
２）保温材、緩衝材、断熱材はホルムアルデヒド又はスチレンを放散させないか、放散が極めて少ないものとする
３）接着剤はフタル酸ジーｎ－ブチル及びフタル酸ジー２－エチルヘキシルを含有しない難揮発性の可塑剤を使用し、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを放散させないか、放散が極めて少ないものとする
４）塗料はホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを放散させないか、放散がきわめて少ないものとする
５）１）、３）及び４）の材料等を使用して作られた家具、書架、実験台その他の什器等は、ホルムアルデヒドを放散させないか、放散が極めて少ないものとする
また、設計図書に規定する「ホルムアルデヒド放散量」は、次のとおりとする
　ホルムアルデヒド放散量　規制対象外
　該当する建築材料
　①ＪＩＳ及びＪＡＳのＦ☆☆☆☆品
　②建築基準法施行令第２０条の７第４項による国土交通大臣認定品
　③下記表示のあるＪＡＳ適合品
　　ａ．非ホルムアルデヒド系接着剤使用
　　ｂ．接着剤等不使用
　　ｃ．非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散させない材料使用
　　ｄ．ホルムアルデヒドを放散させない塗料等使用
　　ｅ．非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散させない塗料使用
　　ｆ．非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散させない塗料等使用
　ホルムアルデヒド放散量　第三種
　　該当する建築材料
　　①ＪＩＳ及びＪＡＳのＦ☆☆☆品
　　②建築基準法施行令第２０条の７第３項による国土交通大臣認定品
　　③旧ＪＩＳのＥｏ品
　　④旧ＪＡＳのＦｃｏ品

⑦ 材料の品質等（1.4.2）
本工事に使用する材料・機材等は、設計図書に定める品質及び性能を有するもの又は同等のものとする。ただし、製造業者等が記載されている場合に同等品を使用する場合は、あらかじめ監督職員の承諾を受ける
ＪＩＳ又はＪＡＳマーク表示のない材料及びその製造業者等又は、別表に示す材料・機材等の製造業者等は、次の（１）から（６）すべての事項を満たすものとし、この証明となる資料又は外部機関が発行する品質及び性能等が評価されたことを示す書面を提出して監督職員の承諾を受ける
　（１）品質及び性能に関する試験データが整備されていること
　（２）生産施設及び品質の管理が適切に行われていること
　（３）安定的な供給が可能であること
　（４）法令等で定める許可、認可、認定又は免許を取得していること
　（５）製造又は施工の実績があり、その信頼性があること
　（６）販売、保守等の営業体制が整えられていること（なお、システムとして機能するものにあっては、システムの構築能力があり、現場で施工体制が整えられていること）

別表

床型枠用鋼製デッキプレート	オーバーヘッドドア
鉄骨柱下無収縮モルタル	防水剤
無収縮グラウト材	現場発泡断熱材
乾式保護材	フリーアクセスフロア
透水・保水性床タイル及びブロック	可動間仕切
既成調合モルタル	移動間仕切
ルーフドレン	トイレブース
吸水調整材	煙突用成形ライニング材
アルミニウム製建具	天井点検口
鋼製建具	床点検口
鋼製軽量建具	グレーチング
ステンレス製建具	屋上緑化システム
錠前類	トップライト
クローザ類	エポキシ樹脂
自動扉機構	タイル部分張替え用接着剤
自閉式上吊り引戸機構	ポリマーセメントモルタル
重量シャッター	既成調合目地材
軽量シャッター	鋳鉄製ふた

⑧ 特別な材料の工法
標準仕様書に記載されていない特別な材料の工法は、当該製品等の指定工法による

⑨ 技能士（1.5.2）
下表により適用する技能士は、適用する工事作業中、１名以上の者が自ら作業をするとともに、他の技能者に対して、施工品質の向上を図るための作業指導を行うこと
（技能士：職業能力開発促進法による一級技能士又は単一等級の資格を有する者）
また、その技能士はその者が技能士であることがわかる名札（下図参考）を常時着用すること

工事種目	技能検定職種	技能検定作業
仮設工事	とび	・とび作業
鉄筋工事	鉄筋施工	・鉄筋組立作業
コンクリート工事	型枠施工	・型枠工事作業
	コンクリート圧送施工	・コンクリート圧送工事作業
鉄骨工事	鉄工	・構造物鉄工作業
	とび	・とび作業
コンクリートブロック・ＡＬＣ	ブロック建築	・コンクリートブロック工事作業
パネル・押出成形セメント板工事	ＡＬＣパネル施工	・ＡＬＣパネル工事作業
防水工事	防水施工	・アスファルト防水工事作業 ・ウレタンゴム系塗膜防水工事作業 ・アクリルゴム系塗膜防水工事作業 ・合成ゴム系シート防水工事作業 ・塩化ビニル系シート防水工事作業 ・セメント系防水工事作業 ⊙シーリング防水工事作業 ・改質アスファルトシートトーチ工法 ・防水工事作業 ・ＦＲＰ防水工事作業
石工事	石材施工	・石張り作業
タイル工事	タイル張り	・タイル張り作業
木工事	建築大工	・大工工事作業
屋根及びとい工事	建築板金	⊙内外装板金作業
	スレート施工	・スレート工事作業
金属工事	内装仕上施工	・鋼製下地工事作業
	建築板金	・内外装板金作業
左官工事	左官	・左官作業
建具工事	サッシ施工	・ビル用サッシ施工作業
	ガラス施工	・ガラス工事作業
	自動ドア施工	・自動ドア施工作業
カーテンウォール工事	カーテンウォール施工	・金属製カーテンウォール工事作業
	サッシ施工	・ビル用サッシ施工作業
	ガラス施工	・ガラス工事作業
塗装工事	塗装	⊙建築塗装作業
内装工事	内装仕上施工	・プラスチック系床仕上工事作業 ・カーペット系床仕上作業 ・ボード仕上工事作業
	表装	・壁装作業
排水工事	配管	・建築配管作業
舗装工事	路面表示施工	・溶解ペイントマーカー工事作業 ・加熱ペイントマシンマーカー工事作業
植栽工事	造園	・造園工事作業
畳工事	畳	・畳製作作業

《技能士名札参考図》

10 化学物質の濃度測定（1.5.9）
図示した室のホルムアルデヒド、スチレン、トルエン、キシレン、エチルベンゼンの室内濃度を測定し、厚生労働省が定める指針値以下であることを確認し、監督員に報告するパッシブ型採取機器を用いて、次の要領で測定及び分析を行う
・　パラジクロロベンゼン
　①３０分間換気
　　測定対象室のすべての窓及び扉（造り付け家具、押し入れ等の収納部分の扉を含む）を開放し、３０分間換気する
　②５時間閉鎖
　　①の後、測定対象室すべての窓及び扉を５時間閉鎖する。ただし、造り付け家具、押し入れ等の収納部分の扉は開放したままとする
　③測定
　　イ　②の状態のままで測定する
　　ロ　測定時間は、原則として２４時間とする。ただし、工程等の都合により、２４時間測定が行えない場合は、８時間測定とする。なお、８時間測定の場合は、午後２時～３時が測定時間帯の中央となるよう、１０時３０分～１８時３０分までの時間帯で測定する
　　ハ　測定回数は１回とし、複数回の測定は不要とする
　④分析
　　測定対象化学物質を採取したパッシブ型採取機器を分析機関に送付し、濃度を分析する
　⑤その他
　　監督員から測定方法に関する注意事項等の指示を受けること

⑪ 完成写真
下記のものを監督員に提出する

区分	分類・規格	撮影箇所	部数	原版の大きさ(㎜)
※　工事記録写真	カラーサービス判	各工種の工程毎	２部	・24×36以上
※　完成写真	カラーサービス判	⊙内部 10 箇所	２部	・24×36以上
		⊙外部 6 箇所	２部	・24×36以上
・	カラーキャビネ判	・内部　箇所	部	・24×36以上
		・外部　箇所	部	・24×36以上
・　パネル	カラー	・四ッ切　箇所	２部	・100×125以上
		・半切　箇所		・24×36以上
		・全紙　箇所		
・				

⊙　電子データ及びネガの提出[工事記録写真]　（・要　・不要）
⊙　電子データ及びネガの提出[完成写真]　（・要　・不要）

⑫ 完成時の提出図書（1.7.1~2）
下記のものを監督員に提出する
⊙　原図Ａ１版又はＡ２版（設計図の第２原図訂正不可）　1 部
⊙　ＣＡＤデータ　1 部
⊙　原図の陽画複写紙の２つ折製本　2 部
・　原図の縮小版の陽画複写紙の２つ折製本（Ａ４版）　部
・　複写　縮小版Ａ３バラ焼　部

完成図の種類及び内容
⊙　案内図・配置図・面積表　：　配置図には外構整備、屋外給排水系統図含む（ＢＭの表示）
⊙　平面図　：　室名、耐震壁（防火壁）、避難施設等を表示する
⊙　立面図　：　外壁仕上等を表示する
⊙　断面図　：　階高、天井高等を表示する
⊙　仕上表　：　屋外、屋内（各階）の仕上表を表示する
・

⑬ 施工図及び施工計画書（1.7.2）
提出した施工図及び施工計画書の著作に係わる当該建物に限る使用権は、発注者に移譲するものとする

⑭ 設備工事との取り合い
設備機器の位置、取り合い等が検討できる施工図を提出して、監督員の承諾を受ける

設備工事との取り合い		建築	電気	機械
・コンクリート壁、床、梁貫通部	補強	※		
	スリーブ・箱入れ		※	※
・鉄骨造の開口及び補強		※		
⊙照明器具・幹線等の吊りボルト用インサート（釘処理共）			※	
・軽量鉄骨壁のボックス取付用下地			※	
・埋込分電盤・端子盤・プルボックスの仮枠及び埋込部分の補強	仮枠		※	
	補強	※		
・ＯＡフロア・フリーアクセスフロアの切込み及び補強		※		
・埋込型機器取付用の天井壁の切込加工、下地の補強	切込		※	※
	補強	※		
・自動開閉装置を取付ける防火戸の切込み、補強及びドアクローザ、フロアヒンジ		※		
・電気室、自家発電室などの基礎及びピット（蓋を含む）		※		
・テレビアンテナ	基礎	※		
	アンカーボルト		※	
・天井点検口		※		
・機器類のコンクリート基礎	屋内・屋外設置		※	※
	屋上設備	※		

15 設計ＧＬ
※　図示による　・（　　）

16 耐荷重及び耐外力
建築基準法に基づき定められた区分等
基準風速　Ｖｏ＝　ｍ／ｓ
地表面粗度区分　・Ⅰ　・Ⅱ　・Ⅲ　・Ⅳ
積雪区分　建設省告示第１４５５号　別表（　　）

⑰ 保全に関する資料（1.7.3）
下記のものをＪＩＳ Ａ４版ファイルに製本して監督員に提出する。
⊙　主な主要資材、機器等のメーカー及び施工者一覧表
⊙　機器性能試験成績書及び取扱説明書
⊙　保証書
⊙　官公署届出書類（保守に必要とするもの）
⊙　建築物の保守に関する説明書、指導案内書
・
・

⑱ 火災保険等
工事目的物及び工事材料等工事施工途中の事故に伴う損害を補てんするため火災保険等に加入する
（保険の加入期間は、工事完成引き渡しまでとする）

19 環境配慮
鳥取県公共工事環境配慮指針　※　対象工事　・　非対象工事

20 建設リサイクル法
※　対象工事　・　非対象工事

21 鳥取県福祉のまちづくり条例
※　対象工事　・　非対象工事

22 鳥取県景観形成条例
※　対象工事　・　非対象工事

23 バリアフリー法
※　対象工事　・　非対象工事

24 省エネ法
※　対象工事　・　非対象工事

② 仮設工事

① 足場その他（2.2.4）
足場を設ける場合は、公共建築工事標準仕様書（建築工事編）平成２２年版２．２．４（ｂ）によるほか、設置においては「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」の２の（２）手すり据置方式又は（３）手すり先行専用足場方式により行うこと

2 監督職員事務所（2.3.1）
※　設ける　㎡　・　設けない
　備品等は、監督員の指示を受けて設置すること

③ 表示板
※　工事表示板

記入要領
1. 大きさ
　記入寸法は上段の図を標準とする。
　設計及び監理が同一の場合は、下段の図による
　但し必要に応じ寸法の比率により拡大使用する
2. 文字
　常用漢字を使用し書体は角ゴシックとし黒とする
注意事項
1. 工事別を原則とするが、工事規模など都合により各工事を一括して表示してもよい。
2. 設備等の工事業者も一括して表示すること。

④ 工事用水
構内既存の施設　※　利用できない　・　利用できる（ ※　有償　・　無償 ）

⑤ 工事用電力
構内既存の施設　※　利用できない　・　利用できる（ ※　有償　・　無償 ）

⑥ 工事用仮設物
構内既存の施設　・　できる　⊙　できない

7 工事現場のイメージアップ

3 土工事

1 埋戻し及び盛土（3.2.3）
埋戻し土　種別　・Ａ種　※Ｂ種　・Ｃ種　・Ｄ種　表3.2.1
　・　建設汚泥から再生した処理土Ｇ
　　Ｄ種の場合は必要に応じて「セメント及びセメント系固化材を使用した改良土の六価クロム溶出試験実施要領（案）」により、監督員と協議の上、六価クロム溶出試験を行う
盛土　種別　・Ａ種　※Ｂ種　・Ｃ種　・Ｄ種
　・　建設汚泥から再生した処理土Ｇ
　　Ｄ種の場合は必要に応じて「セメント及びセメント系固化材を使用した改良土の六価クロム溶出試験実施要領（案）」により、監督員と協議の上、六価クロム溶出試験を行う

2 建設発生土の処理（3.2.5）
※　構外指示の場所に処分
・　構内指示場所に敷き均し
・　構内指示場所に堆積

4 地業工事

1 共通仕様（4.2.2）（4.2.4）
試験杭　（　）本　位置は構造図による
地盤の平板載荷試験　※　行わない
　・　行う　（　）箇所
　　位置、深さ、対象地盤及び最大載荷荷重は構造図による
　　試験の方法、報告書の記載事項等は構造図による

2 既製コンクリート杭地業（4.3.2~7）
材料
※　遠心力高強度プレストレストコンクリート杭（ＰＨＣ杭）
・　外殻鋼管付きコンクリート杭（ＳＣ杭）
・　プレストレス鉄筋コンクリート杭（ＰＲＣ杭）

	符号	杭径(㎜)	杭長（ｍ）及び種別	継手数	本数	コンクリート強度（Ｎ／㎜²）	長期設計支持力（ｋＮ／本）	備考
試験杭			上杭 中杭 下杭					
本杭			上杭 中杭 下杭					

ＳＣ杭の鋼管　・ＳＫＫ４００　・ＳＫＫ４９０　・ＳＴＫ４００　・ＳＴＫ４９０
ＳＣ杭の板厚　※　構造図による
ＰＨＣ杭の種別　・Ａ種　・Ｂ種　・Ｃ種
ＰＲＣ杭の種別　・Ⅰ種　・Ⅱ種　・Ⅲ種　・Ⅳ種
　なお、特定埋込杭工法における杭材料はＪＩＳ又は認定条件に適合するものとする

先端部材形状　※　開放形　・　閉そく平たん形
ネガティブフリクション対策
　※　不要　・　要（構造図による）
杭の継手　・　溶接継手
　・　機械式無溶接継手　（ ※　建築基準法に基づき評定等を受けたもの）
　　機械式無溶接継手は評定等により定められた項目の検査を行う
　　施工は評定等に記された施工管理基準による
杭頭の処理　※　切断しない　・
杭頭の中詰材料　※　コンクリート（基礎コンクリートと同仕様）
支持地盤　※　構造図による
施工方法
　※　特定埋込み杭工法　・　セメントミルク工法
　　・　Ｈ１３国交告１１１３号第6による支持力算定式でα＝２５０程度を採用できる工法
　　・　Ｈ１３国交告１１１３号第6による支持力算定式でα＝　、β＝　、γ＝　を採用できる工法
　　　工法　・　プレボーリング拡大根固め工法　・　中掘り拡大根固め工法
　　　杭周固定液の使用　・　する　・　しない
杭の精度
　水平方向の位置ずれ　・　杭径の１／４かつ１００mm以下　・
　杭の傾斜　・　１／１００　・　評定条件または認定条件による　・

訂正	

鳥取県建築士事務所協会会員
(有)沢田建築設計事務所
1級建築士事務所 登録 鳥取県第25-201号　1級建築士登録 第188531号　中野 充千俊

日付	１４．０１．．
設計	所長　担当　製図

工事名	平成26年度 学校給食センター屋根等改修工事 **工事設計図**
図面名	特記仕様書（１）

縮尺	／
図面番号	A 02 ／ 17

⑨ 防水工事

1 アスファルト防水（9.2.2~5）

アスファルトの種類　３種
防水層の下地のモルタル塗り　・ 適用する（施工範囲　・ 図示　・　　）

屋根保護防水　表9.2.3~6

種別	施工箇所	断熱材 G	絶縁用シート	立上り部の保護
・ A－１			※ ポリスチレンフィルム 厚さ 0.15mm以上 ・	※ 乾式保護材 ・ コンクリート押え
・ A－２				
・ B－１				
・ B－２				
・ AＩ－１		※ 押出法ポリスチレンフォーム ３種ｂスキン層付 厚さ ※ 25mm ・ 50 ・	※ フラットヤーンクロス 70ｇ／㎡程度 ・	
・ AＩ－２				
・ BＩ－１				
・ BＩ－２				

断熱材は、原則としてグリーン購入法における特定調達品目を使用すること

屋根保護防水断熱工法の断熱材（オゾン層破壊物質を含まないもの。また、長期的に断熱性能を保持しつつ、可能な限り地球温暖化係数の小さい物質が使用されていること） G
材質　※ 押出法ポリスチレンフォーム３種ｂスキン層付（ＪＩＳ　Ａ９５１１）
厚さ　※ ２５㎜　・
防水立上がり部の保護
※ 乾式保護材
無石綿繊維質原料等を主原料として板状に押出成形し、オートクレーブ養生したもの（窯業系パネル）とし、寸法は図示による
品質・性能等
寸法の許容差　厚さ：－５～＋１０%、幅：±１%
曲げ強さ、　曲げモーメント（N・cm）（スパン５０cmにおける単位幅１cmあたりの曲げモーメント）標準時４５０以上、凍結融解完了時（試験サイクル数）３２０以上（２００）耐凍結融解性能（試験サイクル数：上記）試験後、著しい割れや剥離がなく外観上異常がないこと
吸水性　（２０%以下）　吸水による長さ変化率（０．０７%以下）
耐火性能　不燃
耐衝撃性　高さ１．０mから試験体の弱点部に５００ｇのおもりを落としたとき、裏面に達する穴があかないこと
出荷時の含水率　１０%以下
・ れんが

屋根露出防水　表9.2.7

種別	施工箇所	種別	施工箇所
・ D－１		・ D－２	

屋根露出防水　表9.2.8

種別	施工箇所	種別	施工箇所
・ E－１		・ E－２	

保護層　・ 設ける（図示）

2 改質アスファルトシート防水（9.3.2~3）

表9.3.1

工程による種別	施工箇所	改質アスファルトシート	種類	厚さ（mm）
・ AS－１		下層用	※非露出複層防水用Ｒ種 ・	※２．５mm以上 ・
		上層用	※露出複層防水用Ｒ種 ・	※３．０mm以上 ・
・ AS－２			※露出単層防水用Ｒ種 ・	※４．０mm以上 ・

3 合成高分子系ルーフィングシート防水（9.4.2~3）

防水層の種類　表9.4.1

種別	施工箇所	ルーフィングシートの厚さ（mm）	絶縁用シートの材種	仕上塗料
・ S－F１		※ １．２ ・		・ カラー ※ シルバー
・ S－F２		※ ２．０ ・		
・ S－M１		※ １．５ ・	※発泡ポリエチレンシート ・	・ カラー ※ シルバー
・ S－M２		※ １．５ ・		
・ S－M３		※ １．２ ・	※発泡ポリエチレンシート ・	

機械的固定工法の場合の一般部のルーフィングシートの張付け
建築基準法に基づき定まる風圧力に対した工法を施工計画書として提出する

4 塗膜防水（9.5.3）

防水層の種類　表9.5.1~2

種別	施工箇所	備考
・ X－１		仕上げ塗料塗り　・ カラー ※ シルバー
・ X－２		
・ Y－１	※ 地下外壁防水	
・ Y－２	※ 屋内防水	Y－２の保護層　・ 設ける

5 脱気装置

防水種別	脱気装置の種類	材質	設置数量
D－１ D－２	※ 製造所の仕様による ・	※ 製造所の仕様による ・	※ 製造所の仕様による ・
X－１	・ 平面部脱気型	・ ポリエチレン樹脂 ・ ＡＢＳ樹脂 ・ ステンレス ・ 鋳鉄 ・	（　　）個／㎡
	・ 立上り部脱気型	・ 合成ゴム ・ 塩化ビニル樹脂 ・ ステンレス ・ 銅 ・	（　　）個／㎡

⑥ シーリング用材料（9.6.2）

種類及び施工箇所（図示以外は（表９．６．１）による）
シーリング面への仕上塗材仕上げ等　※ 行わない　・ 行う

⑦ シーリング材の試験（9.6.5）

接着性試験
・ 行う（ ※ 簡易接着性試験　・ 引張接着性試験 ）
⊙ 行わない（試験成績書がある場合）

8 防水下地処理

・ 別記による

１０ 石工事

1 石材（10.2.1）

種類　※ 天然石　・ 人工石
品質　※ １等品（床以外）　※ ２等品（床）
形状、寸法及び厚さ　※ 図示による
石材の種類及び表面仕上げ　表10.2.1~2

施工箇所	種類（産地、名称）	仕上げの種類	表面処理・裏打ち材の有無

2 取付け金物（10.2.2）

乾式工法用金物の種類　・ スライド方式　・ ロッキング方式　表10.2.4

3 その他の材料（10.2.3）

・ 石裏面処理材　（　　）
・ 裏打ち処理材　（　　）
・ ドレンパイプの材質　（　　）
・ 金物固定充填材料　（　　）

１１ タイル工事

1 伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地（11.1.3）

外壁　※ 図示による　・ 表１１．１．１による　・ 耐震スリット部

2 材料（11.2.1）

タイルの形状、寸法等

主な用途による区分	形状寸法（㎜）	再生材の適用 G	吸水率による区分 Ｉ類	Ⅱ類	Ⅲ類	うわぐすり 施ゆう	無ゆう	役物 あり	なし	色 標準	特注	耐凍害性 あり	なし	備考
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	

当該商品又は同等品を使用するものとし、同等品を使用する場合は、あらかじめ監督員の承諾を受けること

役物使用箇所　※各部の形状は図示による

内装	（標準一体成型品以外は接着成型品とする）
外装	出隅、天端出隅、窓台、マグサ

タイルの試験張り　※ 行わない　・ 行う（　　）
タイルの見本焼き　※ 行わない　・ 行う（　　）
有機質接着剤のホルムアルデヒド放散量　※ 規制対象外　・ 第三種

3 外部陶磁器質タイル後張り（6.9.3）（11.3.3）

施工箇所　※ 庁舎外壁（ホールを含む）　・ 図示による
適用タイル　・ 小口タイル　・ 二丁掛タイル　・
躯体表面処理　※ ２階以上を行う　・ 行わない
躯体表面処理工法の種類
※ 目荒し工法
高圧水洗による目荒しは、５０Ｍｐａ以上の水圧で２．５分／㎡程度とし、仕上がり面の程度は監督員の承諾を受ける
施工箇所の躯体打増しは、図示による
・ ＭＣＲ工法
ＭＣＲ工法の仕様はシート製造所若しくは販売店の仕様による
施工箇所の躯体打増し厚さ及び範囲は、図示による
下地モルタル塗り　※ モルタル　・ ポリマーセメントモルタル　・ 行わない
ポリマーセメントモルタルの調合は、１５．２．３（ｄ）による
工法　※ 密着張り　・ 改良圧着張り　・ 改良積上張り　・ モザイクタイル張り　表11.3.2

4 内部陶磁器質タイル後張り（11.3.3）

施工箇所　※ 便所等　・ 図示による
適用タイル　・ 内装陶器質タイル　・ ５０角モザイクタイル　・
下地モルタル塗り　※ モルタル　・ ポリマーセメントモルタル　・ 行わない
ポリマーセメントモルタルの調合は、１５．２．３（ｄ）による
工法　※ 壁タイル接着剤張り　・ 改良積上げ張り　・　表11.3.2

⑫ 木工事

① 表面仕上げ（12.1.4）

・ Ａ種　※ Ｂ種　・ Ｃ種

② 木材 G（12.2.1）

代用樹種を使用できない箇所（　　）
保存処理木材　・ 使用する（使用箇所　　）
間伐材等　・ 使用する（使用箇所　　）
現場搬入時の木材の含水率　※ Ａ種　・ Ｂ種
造作材の材面の品質の基準　※ Ａ種　・ Ｂ種
構造材及び下地材の品質の基準　※ 標準仕様書12.2.1（ｂ）（3）による
樹種
※図示による［ 代用樹種の使用 ： ※ 認めない　⊙ 認める(監督員と協議要) ］
※木材のうち、杉、桧及び松は、「鳥取県産材産地証明制度」の認証を受けたものを使用する。

3 集成材 G（12.2.2）

ホルムアルデヒド放散量　※ 規制対象外　・ 第三種

・ 構造用集成材

施工箇所	強度等級	材面の品質	使用環境	樹種名	寸法（mm）	間伐材等の適用
		・1種 ※2種 ・3種	・1 ・2			・
						・
						・

・ 構造用単板積層材

施工箇所	区分	使用環境	曲げ性能	水平せん断性能	樹種名	寸法（mm）	間伐材等の適用
	・特級 ・1級 ・2級	・1 ・2					・
							・
							・

⊙ 造作用集成材

施工箇所	見付け材面の品質	樹種名	寸法（mm）	間伐材等の適用
	※ 1等　・ 2等			・
				・
				・

・化粧ばり造作用集成材

施工箇所	見付け材面の品質	心材の樹種名	化粧薄板の樹種名	化粧薄板の厚さ（mm）	寸法（mm）	間伐材等の適用
	※1等 ・2等					・
						・
						・

・ 単板積層材

施工箇所	表面の品質	防虫処理	寸法（mm）	間伐材等の適用
	・ 塗装加工 ・ 加工しない（・1等 ・2等 ・3等）	・ する ・ しない		・
				・

4 床張り用合板及びその他の合板 G（12.2.3）（19.7.2）

ホルムアルデヒド放散量　※ 規制対象外　・ 第三種　表15.5.1

・ 普通合板

施工箇所	厚さ（mm）	接着の程度	表板の樹種名	表板の品質	防虫処理	その他の処理	間伐材等の適用
（壁、天井）					・ する ・ しない	・ 難燃処理 ・ 防炎処理	・
（床）	５．５	※ １種 ・ ２種		広葉樹　・ 1等　※ 2等 針葉樹　※ C－D	・ する ・ しない	・	・
							・

・ 構造用合板

施工箇所	厚さ（mm）	接着の程度	等級	有効断面係数化	表板の樹種名	表板の品質	防虫処理	間伐材等の適用
（床）	１２．０	・ 特類 ※ １類	・ １級 ※ ２級			※ C－D ・	・ する ・ しない	・
								・
								・

・天然木化粧合板

施工箇所	厚さ（mm）	接着の程度	化粧板の樹種名	防虫処理	その他の処理	間伐材等の適用
（壁、天井）	※ ４．２ ・ ３．２ ・ ６．０	・ １類 ・ ２類	・ なら ・ しおじ	・ する ・ しない	・ 難燃処理 ・ 防炎処理 ・ しない	・
						・

・特殊加工化粧合板

施工箇所	厚さ（mm）	接着の程度	表面性能	加工面	単板の樹種名	防虫処理	その他の処理	間伐材等の適用
（壁、天井）	※ ４．０ ・	・ １類 ・ ２類	・ F ・ FW ・ W ・ SW	・ 表面 ・ 両面		・ する ・ しない	・ 難燃処理 ・ 防炎処理 ・ しない	・
								・

5 接着剤（12.2.6）

接着剤に含まれる可塑剤は、難揮発性のものとする。
ユリア樹脂、メラミン樹脂、フェノール樹脂、レゾルシノール樹脂又はホルムアルデヒド系防腐剤（以下、「ユリア樹脂等」という）を用いた接着剤のホルムアルデヒド放散量
※ 規制対象外　・ 第三種

6 防腐、防蟻処理（12.2.8~9）

防腐処理　・ 行う
防蟻処理　・ 行う（施工範囲　※ 図示　・　　）
防腐、防蟻処理の種類、品質
表面処理用木材保存（防腐・防蟻処理）剤はクロルピリホスを含有しない薬剤とし、監督員の承諾するものとする

⑬ 屋根及びとい工事

① 長尺金属板葺（13.2.2~3）

長尺金属板の種類　表13.2.1
※ 塗装溶融５５%アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯（屋根用）（ＣＧＬＣＣＲ－２０－ＡＺ１５０）
・ 塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯（屋根用）（ＣＧＣＣＲ－２０－Ｚ２５）
・ ポリ塩化ビニル被覆金属板（Ａ種、ＳＧ）
・ 塗装溶融亜鉛－５%アルミニウム合金めっき鋼板及び鋼帯（屋根用）（ＣＺＡＣＣＲ－２０）

長尺金属板の厚さ（㎜）
一般部　・ ０．３　・ ０．３５　※ ０．４　谷部　・ ０．３　※ ０．４
屋根葺き形式　⊙ 横葺　・ 芯木なし瓦棒葺　・ 立平葺　・ あり掛葺
屋根葺き工法を定める専門工事業者　※ 監督員の承諾する業者
建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対応した工法を施工計画として提出する

2 折板葺（13.3.2）

形式　※ 重ね形又ははぜ締め形　・ かん合形　表13.2.1
山高　㎜　山ピッチ　㎜
耐力　※
厚さ　※ ０．８㎜　・ ０．６㎜
材料　※ 塗装溶融５５%アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯（屋根用）（ＣＧＬＣＣＲ－２０－ＡＺ１５０）
・ 塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯（屋根用）（ＣＧＣＣＲ－２０－Ｚ２５）
・ ポリ塩化ビニル被覆金属板（ＳＧ　Ａ種）
・ 塗装溶融亜鉛－５%アルミニウム合金めっき鋼板及び鋼帯（屋根用）（ＣＺＡＣＣＲ－２０）
軒先面戸板　・ 適用する
ペフ張り　・ 適用する（ｔ＝　mm）［ ・ 不燃材　・ ３０分耐火］
・ 適用しない
変形防止材　・ 鉄鋼製　・ ステンレス製
鉄鋼製の表面処理の上塗り　・ 行う（　　）　・ 行わない
表面処理の上塗り　・ 行う　・ 行わない
耐火性能　・ ３０分　・ なし
建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対応した工法を施工計画として提出する

3 粘土瓦葺（13.4.2~3）

材料 ： ※ JIS A 5208 及び図示による　産地［　　］産
下葺材料
※ アスファルトルーフィング９４０　（ JIS A 6005 ）
・
桟木　樹種 ： ※ 杉　※ 桧　・
寸法 ： ※ 21(w)×15(h)以上　・
補強用芯材　樹種 ： ※ 杉　※ 桧　・
寸法 ： ※ 40(w)×30(h)以上　・
棟の工法　※ 図示による
建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対応した工法を施工計画として提出する

4 とい（13.5.2~3）

材種　※ 配管用鋼管　表13.5.1
・ 硬質ポリ塩化ビニル管（ＶＰ）［ ※ ＲＦＶＰ G　・ ＶＰ ］
・ ステンレス管
鋼管製といの防露　※ 行う（表１３．５．４）　・ 行わない
ロックウール保温筒及びフェノールフォーム保温筒のホルムアルデヒドの放散量
※ 規制対象外　・ 第三種
とい受け金物　※ 市販品　・ 表１３．５．２
飾り桝
ルーフドレイン　※ 市販品　・ 設けない

5 鋼管製といの防露巻工法部等の処理（13.5.3）

防露部　ステンレス（ＳＵＳ３０４、厚さ０．２㎜）で被覆する　表13.5.4
高さ（㎜）　床　※ １５０　・
天井　※ ３０　・
防露を行わない場合　ステンレス製シーリングプレートを取付ける（床、天井共）

１４ 金属工事

1 あと施工アンカー（14.1.3）

引抜き耐力の確認試験　※ 機械的簡易引抜試験機による引張試験　・行わない
設計用引張強度［　　］　・

2 ステンレスの表面仕上げ（14.2.1）

※ ＨＬ仕上げ　・ 鏡面仕上げ　・
施工箇所［　　］

3 アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理（14.2.2）

表14.2.1

種別	施工箇所	種別	施工箇所
B－１種			
B－２種			
C－１種			

他の項目に特記されたものを除く

4 鉄鋼の亜鉛めっき（14.2.3）

表14.2.2

種別	施工箇所	種別	施工箇所
A種			
C種			

他の項目に特記されたものを除く

5 軽量鉄骨天井下地（14.4.2~4）

野縁等の種類　屋外　※ ２５型　・
屋内　※ １９型　・ ２５型
屋外の軒天井、ピロティ天井等
建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法を施工計画書として提出する
天井下地における耐震性を考慮した補強
※ １４．４．４（ｈ）による
・ 天井のふところが３mを超える場合　補強箇所　※ 図示
補強方法　※ 図示

6 軽量鉄骨壁下地（14.5.2~4）

スタッド、ランナー等の種類　表14.5.1
・ ５０形　・ ６５形　・ ７５形　・ ９０形　・ １００形

7 金属成形板張り（14.6.2~3）

表14.2.1

種別	※ アルミスパンドレル　・
製法	※ 押出し　・ ロール
寸法（㎜）	板幅 板厚
表面処理	・ B－１種　・ B－２種
伸縮継手	・ 設ける（図示による）　※ 設けない
形状	・ 図示による　・

8 アルミニウム製笠木（14.7.2~3）

※ 押出し形材　表14.7.1
部材の種類　・ ２５０形（呼称肉厚は１．６以上）
・ ３００形（呼称肉厚は１．８以上）
・ ３５０形（呼称肉厚は２．０以上）
表面処理　※ A－１種又はB－１種　・
隅角部及び突当り部等の役物　笠木製造所の仕様による
・ 曲げ材
材質　ＪＩＳ　Ｈ４０００による
表面処理　※ A－１種又はB－１種　・
厚さ（㎜）　・ ２．０　形状は図示による
建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対応した工法を施工計画書として提出する

9 手すり（14.8.2）

材料の種別　※ 配管用鋼管　・ ステンレスＳＵＳ３０４（ ※ ＨＬ　・　）
亜鉛めっき　・ 行う（ ※ Ｃ種　・　）　・ 行わない

１０ タラップ（14.8.3）

材料の種別　※ ステンレス（ＳＵＳ３０４）　・ 鋼製

１１ サッシ取合い間仕切板

※ アルミニウム製（表面処理はアルミニウム製建具の項による）
・ 鋼板製（溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯　亜鉛の付着量Ｚ１２又はＦ１２）

１２ エキスパンションジョイント金物

材質　※ アルミニウム製
表面処理　※ B－１種　・ B－２種
クリアランス　※ ５０　・ １００　・ １５０
耐火性能　・ 図示による

１５ 左官工事

1 防水材料（15.2.2）（15.5.2）（15.7.2）

屋内の壁及び天井の仕上材は、不燃材料又は、建築基準法に基づく基材同等の認定を受けたものとする。
複層仕上塗材を内装不燃箇所に使用する場合は、ＣＥ又はＳｉとするか、基材同等の認定を受けた内装甲とする。

2 吸水調整材（15.2.2）

※ 表１５．２．２による　表15.2.2

3 防水剤（15.2.2）

品質・性能等
防水剤の種類は建築用のモルタルに用いるセメント防水剤とする
膨張性のひび割れおよびそりがないこと（ＪＩＳ　Ｒ５２０１規定９）
混合割合　セメント重量の５%以下（ＪＩＳ　Ａ１４０４）
吸水比　９５%以下（ＪＩＳ　Ａ１４０４）
透水比　８０%以下（水圧は２９４ｋＰａとし、１時間行う）
凍結時間　始発１時間以上、終結１０時間以内（ＪＩＳ　Ｒ５２０１規定８）
曲げ及び圧縮強度比　７０%以上（ＪＩＳ　Ａ１４０４）

4 既製目地材（15.2.2）

・ 使用する（形状　　）

5 セルフレベリング材塗り（15.4.2~3）

表15.4.1

種類	厚さ（㎜）	施工箇所
※ セメント系	※ １０	
・ せっこう系	・ １０	

6 床コンクリート直均し仕上（15.3.2~3）

下表以外は表６．２．４及び１５．３．２による　表6.2.4

施工箇所	平坦さ（mm）	備考
フリーアクセスフロア（パネル工法）範囲	１mにつき１０以下	
フリーアクセスフロア（溝工法）範囲	３mにつき　７以下	

7 仕上げ塗材仕上げ（15.5.2）

薄付け仕上塗材　表15.5.1~2

種類	仕上げの形状	工法
・ 外装薄塗材Ｅ	・ 砂壁状 ・ 着色骨材砂壁状	吹付け

・ 厚付け仕上塗材

種類	仕上げの形状	工法	上塗材
・ 外装厚塗材Ｅ	・ 吹放し ・ 凸部処理	吹付け	・ 行う ・ 行わない

⑮ 左官工事

⑦ 仕上げ塗材仕上げ (15.5.2)

・ 複層仕上塗材

種類	仕上げの形状	工法	上塗材（耐候性　耐候形３種）		
⊗ 複層塗材Ｅ	※ 凹凸模様	吹付け	⊗ 水系	※ アクリル系	⊗ つやあり
・ 可とう形複層塗材Ｅ ・ 複層塗材Ｓｉ ・ 複層塗材ＣＥ ・ 複層塗材ＲＥ ・ 複層塗材ＲＳ ・ 防水形複層塗材ＣＥ ・ 防水形複層塗材Ｅ ・ 防水形複層塗材ＲＳ ・ 防水形複層塗材ＲＥ	・ 凹凸模様 ・ 凸部処理 ・ ゆず肌状	吹付け ローラー	・ 水系 ・ 溶剤系 ・ 弱溶剤系	・ アクリル系 ⊙ ポリウレタン系 ・ アクリルシリコン系 ・ フッ素系 ・ シリカ系	・ つやあり ・ つやなし ・ メタリック

・ 軽量骨材仕上塗材

種類	仕上げの形状	工法
・ 吹付用軽量塗材	砂壁状	吹付け
・ こて塗用軽量塗材	平たん状	こて塗り

防火材料の指定　※　屋内の壁、天井の仕上材は防火材料とする
建物内部に使用するユリア樹脂等を用いた塗料のホルムアルデヒド放散量
※　規制対象外　　・　第三種
⊙ 下地調整　水洗い、塗装改修ＲＢ種

8 ロックウール吹付け (15.7.1~4)

厚さ(mm)　・ 10　・ 15　・ 20　・ 30　・
ロックウール及び接着剤のホルムアルデヒド放散量
※　規制対象外　　・　第三種

16 建具工事

1 アルミニウム製建具 (16.2.2~4)

外部に面する建具の性能等級等

種別	※ Ａ種	・ Ｂ種	・ Ｃ種
耐風圧性	※ Ｓ－４	・ Ｓ－５	・ Ｓ－６
気密性	※ Ａ－３		・ Ａ－４
水密性	※ Ｗ－４　・ Ｗ－５		・ Ｗ－５
枠見込み (mm)	・ ７０　・ １００		・ １００
表面処理	※ Ｂ－１種　・ Ｂ－２種 （・ アンバー　・ ブロンズ　・ ステンカラー　・ ブラック）		

防音ドアセット・　防音サッシの遮音性の等級　・ Ｔ－１　・ Ｔ－２　・ Ｔ－３
断熱ドアセット・断熱サッシの断熱性の等級 Ｇ　・ Ｈ－１　・ Ｈ－２　・ Ｈ－３
耐震ドアセットの面内変形追従性の等級　・
網戸等

種類	材種	線径	網目
・ 防虫網	・ 合成樹脂製 ※ ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ ステンレス製（ＳＵＳ３１６）	０．２５mm以上	１６～１８メッシュ
・ 防鳥網	ステンレス製（ＳＵＳ３０４）線材	１．５mm	網目寸法　ピッチ１５mm

外部に面する建具以外の表面処理　Ｃ－１種又はＢ－１種

2 鋼製建具 (16.3.2)

外部に面する建具の耐風圧性の等級　・ Ｓ－４　・ Ｓ－５　・ Ｓ－６
防音ドアセット・防音サッシの遮音性の等級　・ Ｔ－１　・ Ｔ－２　・ Ｔ－３
断熱ドアセット・断熱サッシの断熱性の等級 Ｇ　・ Ｈ－１　・ Ｈ－２　・ Ｈ－３
耐震ドアセットの面内変形追従性の等級　・
防火戸　煙感知器連動とする　防火戸の解錠機構は別途とする
　　扉にラッチ受座用切込み開口補強を行う

3 鋼製軽量建具 (16.4.3)

外部に面する建具の耐風圧性の等級　・ Ｓ－４　・ Ｓ－５　・ Ｓ－６
防音ドアセット・防音サッシの遮音性の等級　・ Ｔ－１　・ Ｔ－２　・ Ｔ－３
断熱ドアセット・断熱サッシの断熱性の等級 Ｇ　・ Ｈ－１　・ Ｈ－２　・ Ｈ－３
耐震ドアセットの面内変形追従性の等級　・
防火戸　煙感知器連動とする　防火戸の解錠機構は別途とする
　　扉にラッチ受座用切込み開口補強を行う
戸の鋼板
※ 表面処理亜鉛めっき鋼板
・ ビニル被覆鋼板
・ カラー鋼板　　表16.4.1

区分	材質
召合わせ、縦小口包み板	※ 鋼板　・ ステンレス　・ アルミニウム
扉の表面材、押縁	※ 鋼板　・ ビニル被覆鋼板
枠類	※ 鋼板（くつずりはステンレス）　・ 製作所仕様

4 ステンレス製建具 (16.5.3)

外部に面する建具の耐風圧性　・ Ｓ－４　・ Ｓ－５　・ Ｓ－６　・
防音ドアセット・防音サッシの遮音性の等級　・ Ｔ－１　・ Ｔ－２　・ Ｔ－３
断熱ドアセット・断熱サッシの断熱性の等級 Ｇ　・ Ｈ－１　・ Ｈ－２　・ Ｈ－３
耐震ドアセットの面内変形追従性の等級　・
ステンレス鋼板（屋外）　・ ＳＵＳ４３０Ｊ１Ｌ　・ ＳＵＳ３０４
ステンレス鋼板（屋内）　※ ＳＵＳ４３０　・ ＳＵＳ４３０Ｊ１Ｌ　・ ＳＵＳ３０４
表面仕上げ　※ ＨＬ仕上げ　・
曲げ加工　※ 普通曲げ　・ 角出し曲げ（ ・ ａ角　・ ｂ角　・ ｃ角 ）

5 木製建具 (16.6.2)

建物内部の木製建具に使用する表面材及び接着剤のホルムアルデヒド放散量
※ 規制対象外　・ 第三種
ふすまの材料　種別　※ 表１６．６．３のⅡ型
　上張り紙　※ ビニル紙　・ 新鳥の子
　押入等の裏側　※ 雲花紙
　縁仕上　・ 塗り縁　・ 生地縁（素地）　・ 生地縁（ウレタンクリアー塗装）
枠及びくつずり材料　※ 図示による

6 鍵 (16.7.4)

マスターキー　・ 製作する（　　組）　・ 製作しない
鍵箱　・ 設ける（　　組用　組）　・ 設けない

7 自動ドア開閉装置 (16.8.2~3)

センサーの種類　　表16.8.1~3
※ 光線（反射）　・ マット　・ 熱線　・ 音波　・ 光電
・ 電波　・ タッチ　・ 押しボタン　・ ペダル　・ 多機能便所
取付け位置　・ 床面　※ 天井面　・ 壁面　・ 無目
凍結防止措置　※ 行わない　・ 行う（適用箇所は建具表による）

8 自閉式上吊り引戸装置 (16.9.3)

自閉式上吊り引戸装置の性能　※ 表１６．９．１による

9 重量シャッター (16.10.2)

種類　・ 一般　・ 外壁用防火　・ 屋内用防火　・ 屋内用防煙
防火又は、防煙シャッターは、自動閉鎖装置及び随時閉鎖装置付とし、連動制御盤及び、
煙感知器は別途とする
耐風圧強度　一般（　　）Ｎ／㎡　外壁用（　　）Ｎ／㎡
開閉機能による種類　※ 上部電動式（手動併用）　・ 上部手動式　　表16.10.1
シャッターケース（防火、防煙以外）　※ 設ける　・ 設けない

10 軽量シャッター (16.11.2~4)

開閉形式　※ 手動式　・ 上部電動式（手動併用）　　表16.11.1
耐風圧強度（　　）Ｎ／㎡
スラットの材質　※ ＪＩＳ Ｇ３３１２（塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯）又は
　ＪＩＳ Ｇ３３１８（塗装溶融亜鉛－５％アルミニウム合金めっき鋼板及び鋼帯）
スラットの形状　※ インターロッキング形　・ オーバーラッピング形
シャッターケース　※ 設ける　・ 設けない
ガイドレールの材質　※ ステンレス製（ＳＵＳ３０４）厚さ１．５mm（ ※ 中柱共 ）
座板（屋外の場合）　※ ステンレス製既製品　・

11 オーバーヘッドドア (16.12.2~3)

セクション材料による区分
※ スチールタイプ　・ アルミニウムタイプ　・ ファイバーグラスタイプ
耐風圧性能　・ ５００Ｐａ　・ ７５０Ｐａ　・ １０００Ｐａ
　・ １２５０Ｐａ　・ １７００Ｐａ
開閉形式による区分　※ バランス式　・ チェーン式　・ 電動式
収納形式による区分　・ スタンダード形　・ ローヘッド形　・ ハイリフト形　・ バーチカル形
ガイドレールの材質　※ 溶融亜鉛めっき鋼板　・ ステンレス製（ＳＵＳ３０４）厚さ２．０mm

12 ガラス (16.13.2)

・ 合わせガラス

品種	構成種類	性能
※ フロート合わせガラス	※ フロート板合わせガラス ・ 熱線吸収、フロート板合わせガラス	・ Ⅰ類
・ 網入合わせガラス	・ 網入り、フロート板合わせガラス ・ 網入り、熱線吸収板合わせガラス	・ Ⅱ－１類　・ Ⅱ－２類 ・ Ⅲ類

・ 強化ガラス

材料板ガラスによる種類	種類	性能
※ フロートガラス	※ フロート強化ガラス ・ 熱線吸収強化ガラス	・ Ⅰ類　・ Ⅱ類
・ 型板ガラス	※ 型板強化ガラス	

・ 複層ガラス

品種	断熱性	日射遮へい性
・ 断熱複層ガラス	・ １種	Ｕ１
	・ ２種	Ｕ２
	・ ３種	・ Ｕ－３－１　・ Ｕ－３－２
・ 日射熱遮へい複層ガラス	・ ４種	Ｅ４
	・ ５種	Ｅ５

・ 熱線反射板ガラス

品種	色調
※ 熱線反射ガラス	・ ブルー　・ グレー
・ 高性能反射板ガラス	・ ブロンズ　・ シルバー

品種	日射遮へい性	耐久性	ガラスの種類
※ 熱線反射ガラス	・ １種	Ａ種	
・ 高性能反射板ガラス	・ ２種	・ Ａ種　・ Ｂ種	
	・ ３種	Ｂ種	

反射皮膜面　※ 内面　・ 外面
映像調整　※ 行わない　・ 行う
・ 倍強度ガラス

材料板ガラスによる種類の名称	色調
※ 倍強度ガラス	――――
・ 倍強度熱線吸収ガラス	・ グレー　・ ブルー　・ ブロンズ　・

13 ガラスの留め材 (16.13.2)

表16.13.1

建具の種類	材種
鋼製	※ シーリング材
アルミニウム製	※ シーリング材　・ ガスケット（グレイジングチャンネル形）
ステンレス製	※ シーリング材
木製	※ シーリング材

防火戸のガラス留め材は、建築基準法に基づく防火性能の認定を受けた条件による

14 ガラス溝の寸法、形状等 (16.13.3)

※ 表１６．１３．１による
・ 図示による

15 ガラスブロック積み (16.13.5)

表面形状	呼び寸法	厚さ	色調 クリア	色調 乳白	目地幅(mm) 平積み	目地幅(mm) 曲面積み	伸縮調整目地 (mm)	防火性能
正方形	・ 125ｘ125	80			※ 8～15	外側	※ 6m以下毎に 10～20	※ なし
	・ 160ｘ160	・ 95　・ 125			・ 15～25	※ 15以下	・ 図示による	・ あり
	・ 200ｘ200	・ 95　・ 125						
	・ 320ｘ320	95				内側		
長方形	・ 250ｘ125	80				※ 6以下		
	・ 320ｘ160	95						

曲面積みの曲率半径は、ガラスブロックの幅寸法の１０倍以上とする
壁用金属枠及び補強材　・ 設ける（形状 ※ 図示による　・　　　）
力骨　※ ステンレス鋼（ＳＵＳ３０４）径５．５mmはしご形状複筋及び単筋　・
目地部の力骨の補強方法　※ ガラスブロック製造所の仕様による　・
化粧目地モルタルの色　（　　　　）
シーリング材　※ 表９．６．１による　・
金属製化粧カバー　材質　・ ステンレス製　・ アルミニウム製
　寸法　・ 図示による　・
　形状　・ 図示による　・
建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法を施工計画として提出する

16 ガラス用フィルム

名称	種類	張り面	性能値
※ ガラス飛散防止フィルム	第２種	※ 内張り　・ 外張り	飛散防止率　Ｄ１
・			

品質　ＪＩＳ Ａ５７６９による。

17 付属電気設備

電動シャッター、自動扉、電動オーバーヘッドドアの電動機が三相電動機０．４ｋｗ以上の場合は
機器付属の操作盤内に電動機保護用遮断機及び進相用コンデンサーを設置する

17 カーテンウォール工事

1 カーテンウォール (17.1.3) (17.2.2~5) (17.3.2~5)

取付方法　・ 層間方式　・ 柱、梁方式　・ 方立方式　・ スパンドレル方式
性能

耐震性能（地震力係数）		気密性	・Ａ－１　・Ａ－２ ・Ａ－３　・Ａ－４　・
水平方向（ｋＨ）	※ １．０　・	耐火性	・３０分 ・１時間
垂直方向（ｋＶ）	※ ０．５　・	耐温度差性	・８０℃　・７０℃　・６０℃
		遮音性	・Ｔ－１　・Ｔ－２　・Ｔ－３　・Ｔ－４
水密性	・Ｗ－１　・Ｗ－２　・Ｗ－３ ・Ｗ－４　・Ｗ－５	断熱性	・Ｈ－１　・Ｈ－２　・Ｈ－３　・Ｈ－４ ・Ｈ－５

主要部材の耐風圧性能（ガラスを除く）

支点間距離（ｈ）	耐風圧性能	状態
４m以下	※ たわみ量が±（１／１５０）ｘｈ かつ絶対量２０mm以下であること	部材の脱落、ガラスの破損及び主要部材に有害な歪みが起こらないこと
４mを超える		

層間変位追従性

建築物の構造種別	層間変位量（ｈ＝支点間距離）	変位後の状態
鉄骨造	※ ±（１／２００）ｘｈ以上	部材の脱落、ガラスの破損及び主要部材に有害な歪みが起こらないこと シーリングは補修程度の損傷であること
鉄筋コンクリート造 鉄骨鉄筋コンクリート造	・ ±（１／３００）ｘｈ以上	

その他の性能　図示による
種類　・ メタルカーテンウォール
　金属材料の種類（見掛かり部分の仕上げ）
　・ アルミニウム製（ ・ Ｂ－１　・　　　）
　・ 鋼製（　　　　　）
　・ ステンレス製（　　　　）
・ ＰＣカーテンウォール
　ゴンドラ用ガイドレール　・ 設置する　・ 設置しない
建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法を施工計画書として提出する

⑱ 塗装工事

① 材料 (18.1.3)

屋内に使用するユリア樹脂等を用いた塗料のホルムアルデヒド放散量
※ 規制対象外　・ 第三種

② 素地ごしらえ (18.2.1~7)

木部　　表18.2.1~7
・ Ａ種（不透明塗料塗り）　・ Ｂ種（透明塗料塗り）
鉄部他　⊙ 下地調整　水洗い、塗装改修ＲＢ種

鉄鋼面	・ Ａ種	・ Ｂ種	※ Ｃ種
亜鉛めっき（建具）面	・ Ａ種	・ Ｂ種	・ Ｃ種
亜鉛めっき（建具以外）面	・ Ａ種	・ Ｂ種	・ Ｃ種
モルタル及びプラスター面	・ Ａ種	※ Ｂ種	
コンクリート及びＡＬＣパネル面	・ Ａ種	※ Ｂ種	
コンクリート及び押出成形セメント板面	・ Ａ種	・ Ｂ種	
石膏ボード及びその他のボード面	・ Ａ種	・ Ｂ種	

③ 錆止め塗料塗り (18.3.1~3)

塗料種別
鉄鋼面　　表18.3.1

	規格名称	種類	摘要
・ Ａ種	・ シアナミド鉛さび止めペイント	・ ２種	・ 屋内　・ 屋外
	・ 鉛、クロムフリーさび止めペイント	・ １種	・ 屋内　・ 屋外
・ Ｂ種	・ 水系さび止めペイント		・ 屋内
	・ 鉛、クロムフリーさび止めペイント	・ ２種	・ 屋内

亜鉛めっき鋼面　　表18.3.2

	規格名称	摘要
・ Ａ種	・ 鉛酸カルシウムさび止めペイント	・ 屋内　・ 屋外
・ Ｂ種	⊙ 変性エポキシ樹脂プライマー	・ 屋内　・ 屋外
・ Ｃ種	・ 水系さび止めペイント	・ 屋内

塗り工程種別
鉄鋼面　　表18.3.3
　見え掛かり部分　（ ※ Ａ種　・ Ｂ種 ）
　見え隠れ部分　（ ・ Ａ種　※ Ｂ種 ）
亜鉛めっき鋼面　　表18.3.4
　鋼製建具等　（ ※ Ａ種　・ Ｂ種　・ Ｃ種）
　その他　（ ・ Ａ種　・ Ｂ種　※ Ｃ種[変性エポキシ樹脂プライマー]）

4 合成樹脂調合ペイント塗り（ＳＯＰ）(18.4.3) (18.4.4)

木部　　表18.4.1
　屋外（ ※ Ａ種　・ Ｂ種 ）
　屋内（ ・ Ａ種　※ Ｂ種 ）
鉄鋼面　　表18.4.2
　・ Ａ種　※ Ｂ種

5 クリヤラッカー塗り（ＣＬ）(18.5.2)

表18.5.1
・ Ａ種　※ Ｂ種

6 アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り（ＮＡＤ）(18.6.2)

表18.6.1
・ Ａ種　※ Ｂ種

⑦ 耐候性塗料塗り（ＤＰ）(18.7.2~4)

コンクリート面及び押出成形セメント板 、　鉄部　　表18.7.3
・ Ａ種　⊙ Ｂ種　・ Ｃ種

8 つや有合成樹脂エマルションペイント塗り（ＥＰ－Ｇ）(18.8.2~5)

コンクリート面等　　表18.8.1~4
・ Ａ種　※ Ｂ種
鉄鋼面（屋内）
・ Ａ種　※ Ｂ種

⑨ 合成樹脂エマルションペイント塗り（ＥＰ）(18.9.2)

表18.9.1
・ Ａ種　※ Ｂ種

10 合成樹脂エマルション模様塗料塗り（ＥＰ－Ｔ）(18.10.2)

表18.10.1
・ Ａ種　※ Ｂ種

11 ウレタン樹脂ワニス塗り（ＵＣ）(18.11.2)

表18.11.1
・ Ａ種　※ Ｂ種

12 木材保護塗料塗り（ＷＰ）(18.13.2)

表18.13.1
・ Ａ種　※ Ｂ種

13 マスチック塗材塗り (18.14.2)

種別　　表18.14.1
・ Ａ種　・ Ｂ種
仕上げ塗材塗り
※ つや有合成樹脂エマルションペイント

⑲ 内装工事

① 接着剤 (19.2.2)

壁紙施工用でん粉系接着剤、ユリア樹脂等を用いた接着剤のホルムアルデヒド放散量
※ 規制対象外　・ 第三種
接着剤に含まれる可塑剤は、難揮発性のものとする

2 ビニル床シート、ビニル床タイル及びゴム床タイル (19.2.2~3)

ビニル樹脂系材料の原材料
　再生ビニル系材料の原材料の合計重量が製品の総重量比で１５％以上使用されていること（ＪＩＳ Ａ５７０５（ビニル系床材）に規定されるビニル系床材の種類で記号ＰＦに該当するものを除く）

・ ビニル床シート Ｇ

種類	記号	色柄	厚さ (mm)	工法
※ 発泡層のないもの	※ ＮＣ	・ プレーン ※ マーブル ・ 特殊柄	・ ２．０ ※ ２．５	・ 突付け ※ 熱溶接

・ ビニル床タイル Ｇ

種類		記号	厚さ (mm)	柄
・ ホモジニアス		ＨＴ	※ ２．０	・ プレーン ※ マーブル ・ 特殊柄
	・ 置敷き	ＨＴ	※ ５．０	
・ コンポジション	※ 半硬質	ＣＴ	※ ２．０	
	・ 軟質	ＣＴＳ		

・ 特殊機能床材（帯電防止）

種類	記号	厚さ (mm)	
・ 帯電防止床シート	ＮＣ	※ ２．０	帯電防止性能評価値（ＪＩＳ Ａ１４５５）１．２以上～３．２未満
・ 帯電防止床タイル	ＣＴＳ		又は体積電気抵抗値（ＪＩＳ Ａ１４５４）$1 \times 10^{7} \sim 10^{10}$Ω程度

・ 特殊機能床材（帯電防止以外）

種類	厚さ (mm)	寸法 (mm)	材料	色柄
・ 誘導用床材、注意喚起用床材（表面形状　ＪＩＳ Ｔ９２５１）	２．０	・ ３００ｘ３００	※ 塩ビ　・ 合成ゴム	黄色
		・ ４００ｘ４００	合成ゴム	

・ ゴム床タイル

色柄	厚さ (mm)	寸法 (mm)	工法

ビニル幅木の高さ (mm)　※ ６０　・ ７５
　厚さ (mm)　※ ２．０　・
　材質　※ 軟質　・ 硬質

3 カーペット敷き (19.3.3~4)

表19.3.2
・ 織ジュータン　（ ※ 帯電防止性能　JIS L 1023 の人体帯電圧 3kv 以下とする。）
　・ Ａ種　・ Ｂ種　・ Ｃ種
・ タフテッドカーペット
　パイル形状　：
　パイル長さ　：
　工　法　：
・ ニードルパンチカーペット
　厚　さ　：
・ タイルカーペット Ｇ　　表19.3.2

種別	パイル形状	寸法 (mm)	総厚さ	電気抵抗（Ω）	工法
※ 第一種 ・ 第二種	※ ループパイル ・ カットパイル	５００角	※ ６．５mm	※ 適用しない ・ 耐電圧３ｋＶ未満	※ のり付加工品敷き

④ 合成樹脂塗床 (19.4.3)

・ 弾性ウレタン樹脂系塗床材　　表19.4.3
　仕上げの種類　※ 平滑仕上げ　・ 防滑仕上げ　・ つや消し仕上げ
⊙ エポキシ樹脂系塗床材　⊙ 下地調整　塗装改修ＲＢ種　サンダー掛け　　表19.4.4~7
　仕上げの種類　・ 薄膜流し展べ仕上げ　・ 厚膜流し展べ仕上げ
　　・ 樹脂モルタル仕上げ　⊙ 防滑仕上げ　（抗菌剤配合改修仕様）
ユリア樹脂等を用いた塗料のホルムアルデヒド放散量
※ 規制対象外　・ 第三種

5 床用防じん塗料塗り

材質　水性アクリル系樹脂塗料（ ※ 標準色　・　　　）
仕上種別　コーティング（ローラー刷毛塗り）
塗布量　主剤２回塗りとし、総塗布量は０．２５Ｋｇ／㎡以上とする

6 フローリング張り (19.5.2~7)

複層フローリングのホルムアルデヒド放散量　※ 規制対象外　・ 第三種
種別・工法
・ 単層フローリング Ｇ（・フローリングボード　・フローリングブロック　・モザイクパーケット）
　・ 湿式工法　・ 乾式工法（ ・ 釘どめ工法　・ 接着工法 ）
※ 複合フローリング Ｇ（ ※ １種　・ ２種　・ ３種 ）　表層　※ なら　・ ヒノキ
　・ 乾式工法（ ・ 釘どめ工法（ ・ Ａ種　・ Ｂ種　※ Ｃ種）　・ 接着工法）
仕上げ　※ ウレタン樹脂ワニス　・ 生地のままワックス　・ オイルステインの上ワックス塗り
間伐材等の適用　※ 適用する　・
間伐材等：間伐材、合板・製材工場から発生する端材等の残材、林地残材又は小径木の体積比割合が１０％以上であること
　居室の内装材にあっては、ホルムアルデヒド放散量（ＪＡＳ規格による測定方法）が平均値で０．３ｍｇ／Ｌ以下かつ最大値で０．４ｍｇ／Ｌ以下であること
県産材の活用
・ 適用しない
・ 適用する（樹種 ・　　・　　・　　・　　）

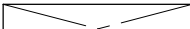
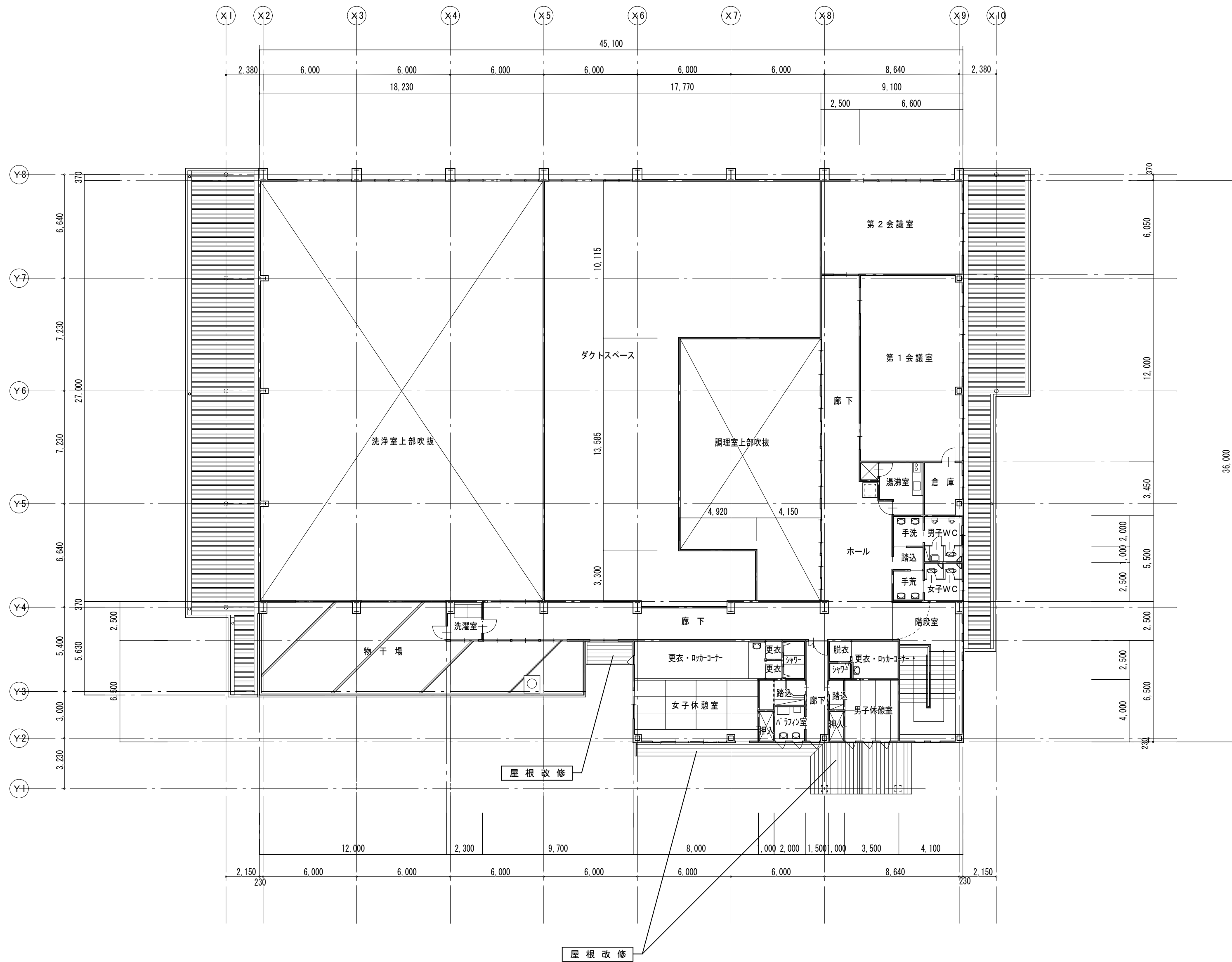
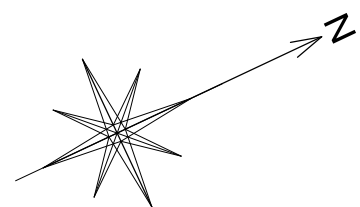
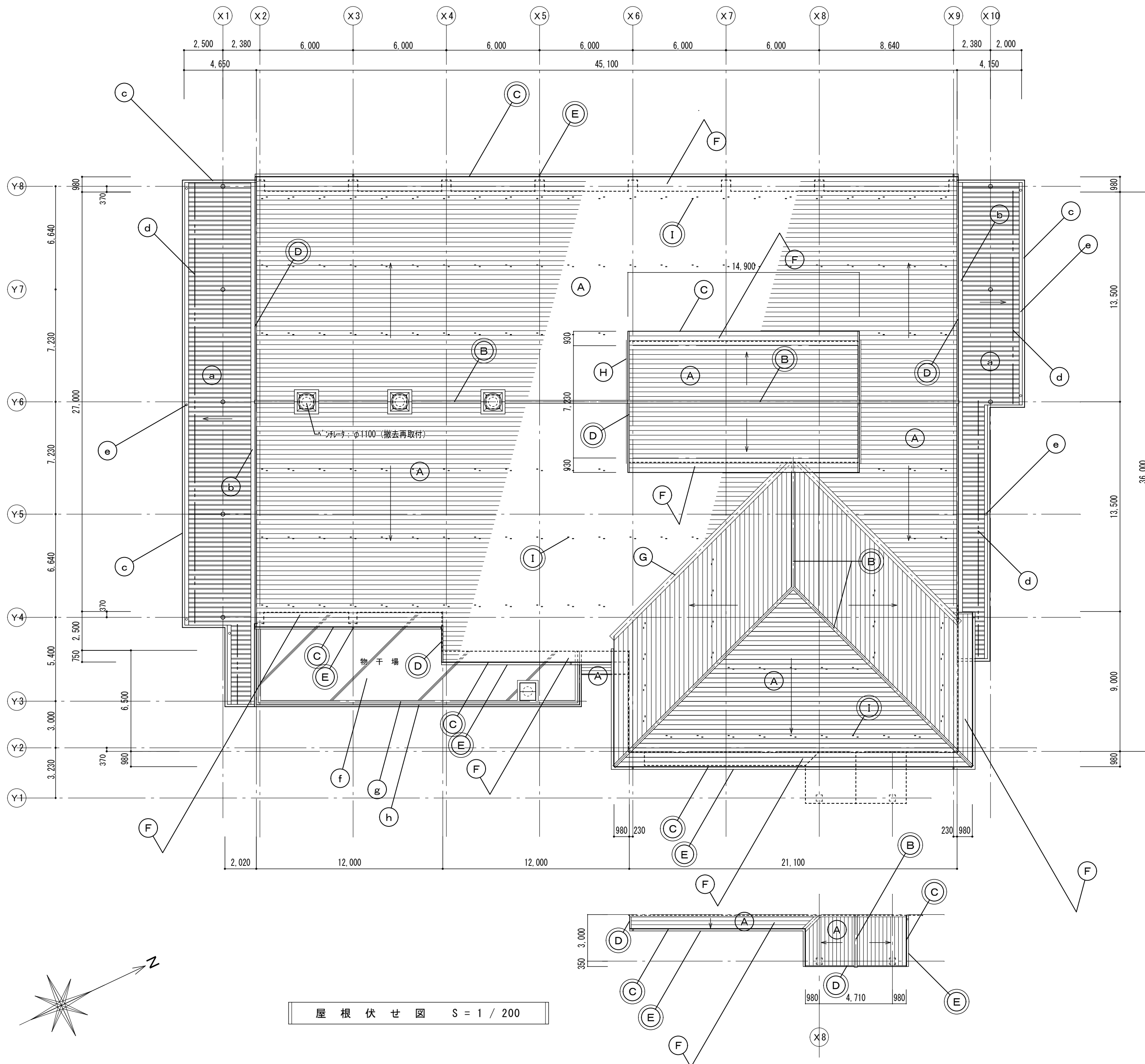
7 畳敷き (19.6.2)

種別　・ Ａ種　・ Ｂ種　・ Ｃ種　※ Ｄ種　　表19.6.1
　Ｄ種の場合の畳床記号　・ＫＴ－Ⅰ　・ＫＴ－Ⅱ　※ＫＴ－Ⅲ　・ＫＴ－Ｋ　・ＫＴ－Ｎ

8 せっこうボードその他ボード及び合板張り (19.7.2)

材種・規格	施工箇所	張り方		厚さ等 (mm)
・ ・ JIS A 6901 規格品 厚さ9.5tは ・ 準不燃認定品 ・ 不燃認定品	・ 壁	・ 下張り	突付け	・ 9.5 ・ 12.5（不燃認定品）
		・ 上張り ・ 直張り ・	・ 目透し ・ 突付け ・ 継目処理 ・ 突付けＶ目地	・ 9.5 ・ 12.5（不燃認定品） ・ mm×　mm ・ mm×　mm
	・ 天井	・ 下張り	突付け	・ 9.5 ・ 12.5（不燃認定品）
		・ 上張り ・ 直張り ・	・ 目透し ・ 突付け ・ 継目処理 ・ 突付けＶ目地	・ 9.5 ・ 12.5（不燃認定品） ・ mm×　mm ・ mm×　mm
・ ・	・ 壁 ・ 天井	・ 下張り	突付け	・ 9.5 ・ 12.5（不燃認定品）
		・ 上張り ・ 直張り ・	・ 目透し ・ 突付け ・ 継目処理 ・ 突付けＶ目地	・ 9.5 ・ 12.5（不燃認定品） ・ mm×　mm ・ mm×　mm

天井及び壁に使用する材料は、建築基準法に基づく防火材料の指定又は認定を受けたもの
合板類、ＭＤＦ及びパーティクルボードのホルムアルデヒド放散量
※ 規制対象外　・ 第三種
パーティクルボード、繊維板、木質系セメント板の原材料 Ｇ
合板・製材工場から発生する端材等の残材、建築解体木材、使用済み梱包材、製紙未利用低質チップ、林地残材、かん木、小径木（間伐材を含む）等の再生資源である木質材料又は植物繊維の重量比配合割合が５０％以上であること。（この場合、再生資材全体に占める体積比配合率が２０％以下の接着材、混和剤等（パーティクルボードにおけるフェノール系接着剤、木質系セメント板におけるセメント等で主要な原材料相互間を接着する目的で使用されたもの）を計上せずに、重量比配合割合を計算することができるものとする）

面　積　表		
敷地面積	6,556.0 ㎡	
施設名称	学校給食センター棟	ＬＰＧ庫
建築面積	1,741.4 ㎡	38.1 ㎡
１階床面積	1,534.1 ㎡	38.1 ㎡
２階床面積	465.6 ㎡	
延べ床面積	1,999.7 ㎡	38.1 ㎡

N
X1 X2 X3 X4 X5 X6 X7 X8 X9 X10
Y1 Y2 Y3 Y4 Y5 Y6 Y7 Y8
片開き点検口450×450
雑品庫
食品庫
冷蔵庫
冷凍庫
倉庫
プラットホーム（資材搬入用）
プラットホーム（給食車用）
検収室
洗浄室
調理室
下調理処置室
前室
女子WC
男子WC
PS
床点検口450×450 ハシゴ付
廃油庫
廊下
残菜処理室
休憩室
監視室
機械室
湯沸室
玄関
身障者WC
倉庫（1）
書庫・OA室
事務室
階段室
EPS
歩道
スロープ
ポーチ
花壇（1）
花壇（2）
花壇（3）
花壇（4）
1 階 平 面 図 S = 1 / 200
凡例
床 塗替え補修仕様
床塗替え補修範囲部分
（壁 立上がり：H=300 及び 床 切込み部分の立上り 共）
既存床：エポキシ樹脂系塗床仕上げ（防滑工法）、壁立上り部分は平滑仕上げ
下地調整：全面サンダー掛けほかＲＢ種程度（下地モルタル）
床仕上げ：抗菌剤配合厚膜型エポキシ樹脂系塗床仕上げ（防滑仕上げ）
塗膜浮き部分ほか下地補修の必要な部分は、下地ペースト防滑工法
壁立上り部分（巾木 H=300）は平滑仕上げ
塗替え範囲外部分（洗浄機器・排水側溝・床切込みほか）
(有) 沢田建築設計事務所
1級建築士事務所 登録 鳥取県第25-201号 1級建築士登録 第188531号 中野 充千俊
日付 14. 01. .
設計 所長 担当 製図
工事名 平成26年度 学校給食センター屋根等改修工事 工事設計図
図面名 1 階 平 面 図
縮尺 1/200
図面番号 A 06 / 17

屋　根　伏　せ　図　　S = 1 / 200
ﾍﾞﾝﾁﾚｰﾀｰ φ1100（撤去再取付）
物　干　場
記号
屋　根　仕　様　（既存）
（撤去）
（既存のまま）
A 屋　根：着色石綿セメント板（平板瓦）葺き（勾配 3.5/10）
下　地：ゴムアスファルトルーフィング 21.4kg、　耐火野地板 t18
母　屋：C-100*50*20*2.3 @455
B 棟包み：屋根同材質、　棟桟 木45*45
C 軒先水切：銅板 t0.4
（平板瓦ともｶｯﾀｰ剪り）
鼻 隠 し：サイディング H300 t12 ２重張り、　ＡＥ塗り
D 棟　巴：屋根同材質
破風板：サイディング H300 t12 ２重張り、　ＡＥ塗り
E 軒　樋：カラー塩ビ製 W140*H120 ドブ漬亜鉛メッキ受金物
（撤去再取付）
竪　樋：カラー塩ビ VU-100A スレンレス掴金物 @120
F 軒天：ケイカル板 t6 ＡＥ塗り、ＬＧＳ下地組
G 谷樋：銅板 t0.4 糸巾450
H 葺止め水切：銅板 t0.4 糸巾 240、　捨て木 30*105
I 雪止めアングル：L-40*40*3 ドブ漬け亜鉛メッキ千鳥取付
a 屋　根：折板 H90 アルミメッキ鋼板 t0.6（ボルトレス工法）
b 水切り・水上面戸：折板同材質 W300
c 鼻隠し：折板同材質 H300
d 雪止めアングル：L-40*40*3 ドブ漬け亜鉛メッキ千鳥取付
e 軒　樋：カラー塩ビ製 W140*H120 ドブ漬亜鉛メッキ受金物
竪　樋：カラー塩ビ VU-100A スレンレス掴金物 @120
f ケミカルアスファルト防水、モルタル金鏝押エ（メタルラス入り）
g アルミ笠木 既製品 W150
h アルミ笠木 既製品 W150、アルミ手摺り 既製品 60*40 H200
(有) 沢 田 建 築 設 計 事 務 所
1級建築士事務所 登録 鳥取県第25-201号 1級建築士登録 第188531号 中野 充千俊
日付 14. 01. .
設計 所長 担当 製図
工事名 平成26年度 学校給食センター屋根等改修工事 工事設計図
図面名 屋 根 伏 せ 図 （撤 去 図）
縮尺 1／200
図面番号 A 08／17

記号
屋根改修仕様
A 屋　根：遮熱鋼板　横張り　(勾配 3.5/10)　カラーＧＬ鋼板　ｔ0.35 ＋ 硬質ウレタンフォーム　(カバー工法)
下　地：ゴムアスファルトルーフィング 21.4kg、構造用合板張り t12
B 棟包み：カラーＧＬ鋼板　ｔ0.4　参考：棟包み260　ケミカル面戸　共
捨て木：杉一等　2-30*100
C 軒先水切：カラーＧＬ鋼板ｔ0.4　参考：軒先唐草60
捨て木：杉一等　1-30*100
鼻隠し：アクリル系吹付けタイル（塗装改修仕様）
D ケラバ包み：カラーＧＬ鋼板ｔ0.4　参考：ケラバ包み50　ケミカル面戸　共
破風板：アクリル系吹付けタイル（塗装改修仕様）
E 軒　樋：カラー塩ビ製 W140*H120　(撤去再取付)　ドブ漬亜鉛メッキ受金物　(不陸調整)
竪　樋：カラー塩ビ VU-100A　スレンレス掴金物 @120　(既存のまま)
F 軒　天：ＥＰ塗り　下地調整 RB種（ケイカル板 t16）　水洗い　高圧洗浄　10～15Mpa
G 谷樋：カラーＧＬ鋼板ｔ0.4　糸巾450　(カバー工法)
H 壁水切り：カラーＧＬ鋼板ｔ0.4　参考：壁水切105*70　(カバー工法)
捨て木：杉一等　1-30*90
I 雪止めアングル：ウイング 足SUS304　参考：BYD3Q0
a 屋　根：折板 H90 アルミメッキ鋼板 t0.6（ボルトレス工法）　(既存のまま)
b 水切り・水上面戸：折板同材質 W300　(既存のまま)
c 鼻隠し：折板同材質 H300　(既存のまま)
d 雪止めアングル：L-40*40*3 ドブ漬け亜鉛メッキ千鳥　(既存のまま)
e 軒　樋：カラー塩ビ製 W140*H120　ドブ漬亜鉛メッキ受金物　(既存のまま)
竪　樋：カラー塩ビ VU-75A　スレンレス掴金物 @120　(既存のまま)
竪樋養生管：鋼管φ100 L=1200　エポキシ樹脂塗り（塗装改修仕様）
f ケミカルアスファルト防水、モルタル金鏝押エ（メタルラス入り）　(既存のまま)
g アルミ笠木 既製品 W120　(既存のまま)
h アルミ笠木 既製品 W150、アルミ手摺り 既製品 60*40 H200　(既存のまま)
玄関破風板・鼻隠し：フッ素鋼板 t0.8（既存）　エポキシ樹脂塗り（塗装改修仕様）
※ ｱｸﾘﾙ系吹付けﾀｲﾙ（塗装改修仕様）：（参考）ﾚﾅﾗｯｸ水性ｺﾝﾎﾟｳﾚﾀﾝ 塗替え仕様、ﾐﾗｸｼｰﾗｰEPO共　水洗い 高圧洗浄10～15Mpa、下地調整 RB種
※ エポキシ樹脂塗り（塗装改修仕様）：JIS K 5659　2回塗り（B種）　錆止め塗料塗りﾒｯｷ鋼面 工程B種 現場１回塗りｴﾎﾟｷｼ樹脂ﾌﾟﾗｲﾏｰ 屋外　水洗い高圧洗浄10～15Mpa、下地調整 RB種
※ 改修する部分の既存シーリングは、取合いを含め全て撤去し再施工する。
※ ベンチレーターの雨押えは、ゴムアスファルトルーフィング 下張り後にｶﾗｰｱﾙﾐﾒｯｷ鋼板ｔ0.6を取付する。
ﾍﾞﾝﾁﾚｰﾀｰ：φ1100
雨押さえ：ｶﾗｰｱﾙﾐﾒｯｷ鋼板ｔ0.6 1200x1200 H400
物干場
機械室屋上ガス給湯機 エポキシ樹脂塗り（塗装改修仕様）
煙突：ｱｸﾘﾙ系吹付ﾀｲﾙ（改修仕様）
玄関鼻隠し：ﾌｯ素鋼板 t0.8加工（塗装改修）
玄関破風板：ﾌｯ素鋼板 t0.8加工（塗装改修）
玄関軒天・天井：アルミスパンドレル（水洗い）
記号 | 鋼材リスト | 記号 | 鋼材リスト
C5 | φ 267.5*8 | t | H-150*75*5*7
2G4 | H-346*174*6*9 | ﾌﾞﾚｰｽ | M-16
2C9 | H-346*174*6*9 | |
2B5 | H-248*124*5*8 | |
※ 上記の鋼材及びプレートは、下記による塗装改修する。
エポキシ樹脂塗り（塗装改修仕様）：JIS K 5659　2回塗り（B種）
錆止め塗料塗り：鉄面 工程B種 現場１回塗りｴﾎﾟｷｼ樹脂ﾌﾟﾗｲﾏｰ 屋外
下地調整：鉄面 RB種
水洗い：高圧洗浄10～15Mpa
屋根伏せ図　S = 1 / 200
(有)沢田建築設計事務所
1級建築士事務所 登録 鳥取県第25-201号 1級建築士登録 第188531号 中野 充千俊
日付 14. 01. .
設計 所長 担当 製図
工事名 平成26年度 学校給食センター屋根等改修工事 工事設計図
図面名 屋根伏せ図 （改修図）
縮尺 1／200
図面番号 A 09 ／ 17

記号	屋根・外壁仕様 (既存)	改修
A	屋 根：着色石綿セメント板（平板瓦）葺き （勾配 3.5/10）	(屋根伏せ図による)
B	棟包み：屋根同材質、 棟桟 木45*45	(〃)
C	軒先水切：銅板 t0.4 鼻 隠 し：サイディング H300 t12 ２重張り、 ＡＥ塗り	(〃)
D	棟 巴：屋根同材質 破風板：サイディング H300 t12 ２重張り、 ＡＥ塗り	(〃)
E	軒 樋：カラー塩ビ製 W140*H120 ドブ漬亜鉛メッキ受金物 竪 樋：カラー塩ビ VU-100A スレンレス掴金物 @120	(〃)
F	軒天：ケイカル板 t6 ＡＥ塗り、ＬＧＳ下地組	(〃)
G	谷樋：銅板 t0.4 糸巾450	(屋根伏せ図による)
H	葺止め水切：銅板 t0.4 糸巾 240、 捨て木 30*105	(〃)
I	雪止めアングル：L-40*40*3 ドブ漬け亜鉛メッキ	(〃)
a	屋 根：折板 H90 アルミメッキ鋼板 t0.6（ボルトレス工法）	(屋根伏せ図による)
c	鼻隠し：折板同材質 H300	(〃)
d	雪止めアングル：L-40*40*3 ドブ漬け亜鉛メッキ	(〃)
e	軒 樋：カラー塩ビ製 W140*H120 ドブ漬亜鉛メッキ受金物 竪 樋：カラー塩ビ VU-75A スレンレス掴金物 @120	(屋根伏せ図による)
1	外 壁：押出成形ｾﾒﾝﾄ板ｔ15張り、吹き付けタイル ジョイントシーリング：ポリサルファイド系 ２成分	(塗 装 改 修) (撤 去)
2	煙突・花壇：コンクリート打ち放し、吹き付けタイル	(塗 装 改 修)
3	サービスヤード・花壇：コンクリート打ち放し	(既存のまま)
4	根廻り：モルタル金鏝押さえ	(塗 装 改 修)
5	玄関ポーチ 壁パネル：フッ素鋼板ｔ0.8加工取付 玄関ポーチ 破風板・鼻隠し：フッ素鋼板ｔ0.8加工取付 ジョイントシーリング：ポリサルファイド系 ２成分	(塗 装 改 修) (撤 去)
6	玄関ポーチ天井：アルミスパンドレル張り	(既存のまま)
7	ポーチ巾木：テラゾーブロックｔ25貼り	(既存のまま)
8	階 段：磁器質タイル300角貼り	(既存のまま)
9	鉄 部：ＳＯＰ塗り	(塗 装 改 修)

※ サッシほか建具廻り及び、換気口ほか外壁取り合いのシーリングは撤去する。

※ 破風板・鼻隠しのシーリングは、撤去する。

訂正	(有) 沢田建築設計事務所 1級建築士事務所 登録 鳥取県第25-201号 1級建築士登録 第188531号 中野 充千俊	日付 14. 01. .	工事名	平成26年度 学校給食センター屋根等改修工事 工事設計図	縮尺 1／200	図面番号 A 10／17
		設計 所長 担当 製図	図面名	立 面 図 （撤 去 図）		

記号	屋根・外壁改修仕様	改修
A	屋 根：遮熱鋼板 横張り （勾配 3.5/10） カラーＧＬ鋼板 ＋ 硬質ウレタンフォーム	(屋根伏せ図による)
B	棟包み：カラーＧＬ鋼板 t0.4	（ 〃 ）
C	軒先水切：カラーＧＬ鋼板ｔ0.4 鼻隠し：アクリル系吹付けタイル（塗装改修仕様）	（ 〃 ）
D	ケラバ包み：カラーＧＬ鋼板ｔ0.4 破風板：アクリル系吹付けタイル（塗装改修仕様）	（ 〃 ）
E	軒 樋：カラー塩ビ （撤去再取付） 竪 樋：カラー塩ビ （既存のまま）	（ 〃 ）
F	軒 天：ＥＰ塗り	（ 〃 ）
G	谷樋：カラーＧＬ鋼板ｔ0.4	(屋根伏せ図による)
H	壁水切り：カラーＧＬ鋼板ｔ0.4	（ 〃 ）
I	雪止め金具	（ 〃 ）
a	屋 根：折板 H90 アルミメッキ鋼板 t0.6（ボルトレス工法）	(屋根伏せ図による)
c	鼻隠し：折板同材質 H300	（ 〃 ）
d	雪止めアングル：L-40*40*3 ドブ漬け亜鉛メッキ	（ 〃 ）
e	軒 樋：カラー塩ビ 竪 樋：カラー塩ビ 養生管：鋼管φ100 L=1200 エポキシ樹脂塗り	(屋根伏せ図による)
1	外 壁：アクリル系吹付けタイル（下地：押出成形ｾﾒﾝﾄ板ｔ15張り） ジョイントシーリング：ポリサルファイド系 ２成分	（塗装改修） （撤去再施工）
2	煙突・花壇：ﾄｯﾌﾟｺｰﾄ吹き付け （下地：コンクリート打ち放し）	（塗装改修）
3	サービスヤード・花壇：コンクリート打ち放し	(既存のまま)
4	根廻り：水洗い汚れ部分付着物除去・ｸﾗｯｸ処理共 （下地：モルタル金鏝押さえ）	（塗装改修）
5	玄関ポーチ 壁パネル：エポキシ樹脂塗り （下地：鋼板ｔ0.8） 玄関ポーチ 破風板・鼻隠し：エポキシ樹脂塗り（下地：鋼板ｔ0.8） ジョイントシーリング：ポリサルファイド系 ２成分	（塗装改修） （撤去再施工）
6	玄関ポーチ天井：水洗い清掃 （アルミスパンドレル張り）	（清 掃）
7	ポーチ巾木：テラゾーブロックｔ25貼り	(既存のまま)
8	階 段：磁器質タイル300角貼り	(既存のまま)
9	鉄 部：エポキジ樹脂塗り	（塗装改修）

※ ｱｸﾘﾙ系吹付けﾀｲﾙ（塗装改修仕様）：（参考）ﾚﾅﾗｯｸ水性ｺﾝﾎﾟｳﾚﾀﾝ 塗替え仕様、ﾐﾗｸｼｰﾗｰEPO共
水洗い 高圧洗浄10～15Mpa、下地調整 RB種
※ エポキシ樹脂塗り（塗装改修仕様）：JIS K 5659 2回塗り（B種）
錆止め塗料塗りﾒｯｷ鋼面 工程B種 現場１回塗りｴﾎﾟｷｼ樹脂ﾌﾟﾗｲﾏｰ 屋外
水洗い高圧洗浄10～15Mpa、下地調整 RB種

※ サッシほか建具廻り及び、換気口ほか外壁取り合いのシーリングはポリサルファイド系２成分撤去する。
※ 破風板・鼻隠しのシーリングは、ポリサルファイド系２成分とする。

※ 表示板 6-300*600 塗替え、鋼製建具 塗替え、消化器ＢＯＸ 500*750*250 塗替え、機械室屋上ガス給湯機、シャッターＢＯＸ 塗替えは、
上記、エポキシ樹脂塗り（塗装改修仕様）とする。（文字 共）又、梁及び外壁に取り付く設備配管も同様とする。

訂正		
(有) 沢田建築設計事務所 1級建築士事務所 登録 鳥取県第25-201号 1級建築士登録 第188531号 中野 充千俊	日付 14. 01. .	設計 所長 担当 製図
工事名	平成26年度 学校給食センター屋根等改修工事 工事設計図	縮尺 1／200
図面名	立 面 図 （改 修 図）	図面番号 A 11／17

屋根：着色石綿ｾﾒﾝﾄ板（平板瓦）葺き
ｺﾞﾑｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞ 21.4kg
耐火野地板 t18
屋根：着色石綿ｾﾒﾝﾄ板（平板瓦）葺き　勾配 3.5/10
軒先水切：銅板 t0.4 糸巾150
軒樋：ｶﾗｰ塩ﾋﾞ 140W*120H
受金物ードブ漬ﾒｯｷ
鼻隠：ｻｲﾃﾞｨﾝｸﾞ t12 ２重張り、AE塗り
軒天：ｹｲｶﾙ板 t6 A-Em塗り
竪樋：ｶﾗｰ塩ﾋﾞ VU-100A
外壁：押出成形ｾﾒﾝﾄ板 t15、吹付ﾀｲﾙ
AFー17kg 張り
GW t50
ﾌﾞﾗｲﾝﾄﾞBOX
天井：化粧PB t9（木目）
壁：防火区画部分 ｹｲｶﾙ板 t12 下地
（他は、JB t12 下地）　ﾋﾞﾆｰﾘｸﾛｽ貼り
女子更衣室
床：タタミ敷き
ﾈﾀﾞﾌｫｰﾑ t50
ﾓﾙﾀﾙ金鏝押え t25
ﾀﾀﾐ寄せ：20*100
20*115
天井：化粧PB t9（木目）
壁：JB t12 下地　ﾋﾞﾆｰﾘｸﾛｽ貼り
事務室
家具
床：ﾀｲﾙｶｰﾍﾟｯﾄ張り
OAﾌﾛｱｰ H100
ﾓﾙﾀﾙ金鏝押え t20
ｺﾝｸﾘｰﾄ打放し仕上げ
花壇
歩車道境界ﾌﾞﾛｯｸ
ｲﾝﾀｰﾛｯｷﾝｸﾞ
配管ピット
RSL
2FL
2SL
1FL
GL
Y2
Y7
Y8
棟包み：屋根材同質
棟桟ー45*45
棟桟受金物
屋根：着色石綿ｾﾒﾝﾄ板（平板瓦）葺き
（勾配 3.5/10）
ｺﾞﾑｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞ 21.4kg
耐火野地板 t18
ﾀｲﾊﾞｰ：2L-90*90*7
ﾀﾞｸﾄｽﾍﾟｰｽ
VU-100A
出隅：同質納物
LGS-65*65 @450
天井吊り下地
出隅：同質納物
軽天ﾊﾞｰ 下地
壁：化粧ｹｲｶﾙ板 t6 張り
ｹｲｶﾙ板 t6 張り 下地
外壁：押出成形ｾﾒﾝﾄ板 t15、吹付ﾀｲﾙ
AFー17kg 張り
ｱﾙﾐ額縁 25*110
調理室
腰壁：ｽﾃﾝﾚｽ t0.6 貼り
ｹｲｶﾙ板 t6 ２重張り 下地
ｱﾙﾐ水切（既製品）
ｱﾙﾐ水切（既製品）
ｺﾝｸﾘｰﾄ打放し仕上げ
床材立上り（平滑）
R付
ｽﾃﾝﾚｽｸﾞﾚｰﾁﾝｸﾞ W300
ﾋﾟｯﾄ内 ﾓﾙﾀﾙ塗り R付
床：ｴﾎﾟｷｼ樹脂塗り床
ﾓﾙﾀﾙ金鏝押え t30 下地
配管ピット
※　は撤去部分を示す。
(有) 沢田建築設計事務所
1級建築士事務所 登録 鳥取県第25-201号 1級建築士登録 第188531号 中野 充千俊
日付 14. 01. .
設計 所長 担当 製図
工事名 平成26年度 学校給食センター屋根等改修工事 工事設計図
図面名 矩計図 (1) （既存撤去）
縮尺 1/30
図面番号 A 12 / 17

Y3
Y4
Y1
Y2
230
6,000
3,500
2,500
370
屋根：着色石綿ｾﾒﾝﾄ板（平板瓦）葺き
ｺﾞﾑｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞ 21.4kg
耐火野地板 t18
軒先水切：鋼板 t0.4 糸巾150
軒樋：ｶﾗｰ塩ﾋﾞ 140W*120H
受金物－ﾄﾞﾌﾞ漬ﾒｯｷ
10
3.5
750
▽ RSL
765.5
GWｳｰﾙ t50
天井：化粧PB t9
軒天：ｹｲｶﾙ板 t6 A-Em塗り
（換気口 有孔ボード）
壁：防火区画部分 ｹｲｶﾙ板 t12 下地
（他は、JB t12 下地） ﾋﾞﾆｰﾙｸﾛｽ貼り
アルミ手摺り（既製品 60*40）
ｱﾙﾐ支柱＠1800
ｱﾙﾐ笠木 W180（既製品）
外壁：吹付ﾀｲﾙ
押出成形ｾﾒﾝﾄ板 t15
AF－17kg 張り
物干場
廊下
ｱﾙﾐ水切 W120（既製品）
ｹﾐｶﾙｱｽﾌｧﾙﾄ防水
ﾓﾙﾀﾙ金鏝押え下地
（ﾒﾀﾙﾗｽ入）
床：長尺塩ﾋﾞｼｰﾄ t2 貼り
ﾓﾙﾀﾙ金鏝押え t30
ｱﾙﾐ水切（既製品）
1/80
ｿﾌﾄ巾木 H100
▽ 2FL
△ 2SL
3,600
2,854.5
8,100
3,450
1,050
1,500
2,700
900
700
200
550
400
170
合成ﾃﾞｯｷﾌﾟﾚｰﾄ H60
鉄骨梁：ﾛｯｸｳｰﾙ吹付け t35
D.PL裏：ﾛｯｸｳｰﾙ吹付け t20
耐火構造
化粧ｹｲｶﾙ板 t12 張り
外壁：吹付ﾀｲﾙ
押出成形ｾﾒﾝﾄ板 t15
AF－17kg 張り
壁：ｹｲｶﾙ板 t12 張り、素地
ＧＬ t50 10kg
竪樋：ｶﾗｰ塩ﾋﾞ VU-100A
壁：ｹｲｶﾙ板 t6 張り、素地
ＧＬ t50 10kg
洗浄室
鉄骨梁：FP塗
機械室
860
200
1,100
ﾓﾙﾀﾙ金鏝押え
ｱﾙﾐ水切（既製品）
床：ｴﾎﾟｷｼ樹脂塗り床
ﾓﾙﾀﾙ金鏝押え t30 下地
ｺﾝｸﾘｰﾄ打放し仕上げ
R付
▽ 1FL
歩車道境界ﾌﾞﾛｯｸ
ｲﾝﾀｰﾛｲｷﾝｸﾞ t60
床：ﾓﾙﾀﾙ金鏝押え t30
配管ピット
▽GL
矩計図 (2) S＝1／30
棟包：屋根材と同質役物
2,380
棟巴：屋根材と同質役物
破風板：防火ｻｲﾃﾞｨﾝｸﾞ t12 2重張り
ＡＥ塗り
天井吊り下地
2,500（2,000）
2,150
300
2,200（1,700）
※（ ）内寸法は、資材搬入ﾌﾟﾗｯﾄﾎｰﾑの各寸法とする。
外壁：押出成形ｾﾒﾝﾄ板 t15、吹付ﾀｲﾙ
AF 17kg 下張り
吹き抜け
屋根：折板 H90 ｱﾙﾐﾒｯｷ鋼板 t0.6
（ﾎﾞﾙﾄﾚｽ工法）
鼻隠：折板材と同質役物
水上面戸
水切
160
87
軒樋：ｶﾗｰ塩ﾋﾞ 120
鉄骨現し：SOP塗り
エアカーテン
竪樋：VU-75φ
掴み金物-1200内外
3方枠：鋼板 t0.4 加工
バックヤード
2,500
ｺﾝｸﾘｰﾄ根巻 500角
床：ﾓﾙﾀﾙ鏝押え t20
床：ｴﾎﾟｷｼ樹脂系塗床仕上
ﾓﾙﾀﾙ金鏝押え t30
ｼﾝﾀﾞｰｺﾝｸﾘｰﾄ t120
縦樋養生管：鋼管φ100 L=1200
▽ 水上
△ 水下
50
130
300
180
ｶｰｽﾄｯﾊﾟｰ：硬質ｺﾞﾑ製 100*100
350
230
1,000
ｺﾝｸﾘｰﾄ金鏝押え
▽ 資材搬入側 ＧＬ
100
※ ○ は撤去部分を示す。
訂正
(有)沢田建築設計事務所
1級建築士事務所 登録 鳥取県第25-201号 1級建築士登録 第188531号 中野 充千俊
日付 14. 01. .
設計 所長 担当 製図
工事名 平成26年度 学校給食センター屋根等改修工事 工事設計図
図面名 矩計図 (2) （既存撤去）
縮尺 1／30
図面番号 A 13 ／17

屋　根：遮熱鋼板　横張り（カバー工法）　（勾配 3.5/10）
カラーＧＬ鋼板　t0.35 ＋ 硬質ウレタンフォーム
下　地：ゴムアスファルトルーフィング 21.4kg、
構造用合板張り t12
Y2
Y7
Y8
700
230
6,000
6,640
370
930
屋　根：遮熱鋼板　横張り（カバー工法）
軒先水切：カラーＧＬ鋼板ｔ0.4
捨 て 木：杉一等　　1-30*100
3.5
10
屋根：着色石綿セメント板（平板瓦）葺き
（既存のまま）
軒樋：カラー塩ビ 140W*120H（撤去再取付）
ドブ漬亜鉛メッキ受金物　（不陸調整）
軒樋：カラー塩ビ 140W*120H
（撤去再取付）
ドブ漬亜鉛メッキ受金物
（不陸調整）
▽ ＲＳＬ
60240
棟包み：カラーＧＬ鋼板　ｔ0.4
捨て木：杉一等　　2-30*100
ケミカル面戸
屋　根：遮熱鋼板　横張り（カバー工法）　（勾配 3.5/10）
カラーＧＬ鋼板　t0.35 ＋ 硬質ウレタンフォーム
下　地：ゴムアスファルトルーフィング 21.4kg、
構造用合板張り t12
鼻隠：アクリル系吹付けタイル（塗装改修仕様）
下地：サイディングt12 ２重張り（既 存）
軒天：A-Em塗り（塗装改修）
下地：ケイカル板 t6 （既 存）
竪樋：カラー塩ビ VU-100A
（既存のまま）
ﾀﾞｸﾄｽﾍﾟｰｽ
LGS-65*65 @450（既存のまま）
VU-100A（既存のまま）
3,600
1,500
2,600
女子更衣室
外　壁：アクリル系吹付けタイル（塗装改修）
下　地：押出成形ｾﾒﾝﾄ板ｔ15張り（既 存）
シーリング：ポリサルファイド系（撤去再施工）
800
壁水切：カラーＧＬ鋼板ｔ0.4
捨て木：杉一等　　1-30*90
100
▽ ２ＦＬ
160
△ ２ＳＬ
軒先水切：カラーＧＬ鋼板ｔ0.4
捨 て 木：杉一等　　1-30*100
8,100
3,760
鼻隠：アクリル系吹付けタイル（塗装改修仕様）
下地：サイディングt12 ２重張り（既 存）
軒天：A-Em塗り（塗装改修）
下地：ケイカル板 t6 （既 存）
3,450
1,500
2,650
事 務 室
調 理 室
1,250
3,290
ｱﾙﾐ水切（既存のまま）
壁立上り部分：平滑仕上げ
床仕上げ：抗菌剤配合厚膜型エポキシ樹脂系塗床仕上げ（防滑仕上げ）
ﾓﾙﾀﾙ金鏝押え t30 下地（既 存）
925
ｺﾝｸﾘｰﾄ打放し仕上げ
（既存のまま）
3,600
花壇
970
ｽﾃﾝﾚｽｸﾞﾚｰﾁﾝｸﾞ W300
ﾋﾟｯﾄ内 ﾓﾙﾀﾙ塗り R付
（既存のまま）
R付
300
根廻り：水洗い
付着物除去・ｸﾗｯｸ処理共
下　地：モルタル金鏝押さえ（既 存）
▽ １ＦＬ
100
30
230
150
2,850
840
1,200
配管ピット
配管ピット
900
1,050
1,050
100
▽ＧＬ
▽ ＧＬ
矩 計 図 (1) (改 修 図)　　S = 1 / 30
訂
正
(有) 沢田建築設計事務所
1級建築士事務所 登録 鳥取県第25-201号 1級建築士登録 第188531号 中野 充千俊
日付　14. 01. .
設計　所長　担当　製図
工事名　平成26年度 学校給食センター屋根等改修工事 工事設計図
図面名　矩 計 図 (1)　(改 修 図)
縮尺　1／30
図面番号　A 14／17

屋　根：遮熱鋼板　横張り（カバー工法）　（勾配 3.5/10）
カラーＧＬ鋼板　ｔ0.35 ＋ 硬質ウレタンフォーム
下　地：ゴムアスファルトルーフィング 21.4kg、
構造用合板張り t12
軒先水切：カラーＧＬ鋼板ｔ0.4
捨 て 木：杉一等　1-30*100
軒樋：カラー塩ビ 140W*120H（撤去再取付）
ドブ漬亜鉛メッキ受金物　（不陸調整）
屋根：着色石綿ｾﾒﾝﾄ板（平板瓦）葺き（既存のまま）
軒天：A-Em塗り（塗装改修）
下地：ケイカル板 t6（既 存）
外壁：ｱｸﾘﾙ系吹付けﾀｲﾙ（塗装改修）
下地：押出成形ｾﾒﾝﾄ板ｔ15張り（既存）
ｼｰﾘﾝｸﾞ：ﾎﾟﾘｻﾙﾌｧｲﾄﾞ系（撤去再施工）
ｱﾙﾐ笠木 W180（既存のまま）
ｱﾙﾐ水切 W120（既存のまま）
ｱﾙﾐ水切（既製品）
物 干 場
廊　下
機 械 室
洗 浄 室
配管ピット
外　壁：アクリル系吹付けタイル（塗装改修）
下　地：押出成形ｾﾒﾝﾄ板ｔ15張り（既　存）
シーリング：ポリサルファイド系（撤去再施工）
竪樋：ｶﾗｰ塩ﾋﾞ VU-100A（既存のまま）
根廻り：水洗い
付着物除去・ｸﾗｯｸ処理共
下　地：モルタル金鏝押さえ（既 存）
壁立上り部分：平滑仕上げ
床仕上げ：抗菌剤配合厚膜型エポキシ樹脂系塗床仕上げ（防滑仕上げ）
ﾓﾙﾀﾙ金鏝押え t30 下地（既 存）
R 付
▽ＲＳＬ
▽２ＦＬ
△２ＳＬ
▽１ＦＬ
▽ＧＬ
矩　計　図　(2)　（改 修 図）　　Ｓ＝１／30
屋根：遮熱鋼板 横張り（ｶﾊﾞｰ工法）
ケラバ包み：カラーＧＬ鋼板ｔ0.4
捨 て 木：杉一等　1-30*40
ｹﾐｶﾙ面戸
２重水切り 100
鼻隠：アクリル系吹付けタイル（塗装改修仕様）
下地：サイディングt12 ２重張り（既 存）
屋根：着色石綿ｾﾒﾝﾄ板（平板瓦）葺き（既存のまま）
※（　）内寸法は、資材搬入ﾌﾟﾗｯﾄﾎｰﾑの各寸法とする。
外　壁：アクリル系吹付けタイル（塗装改修）
下　地：押出成形ｾﾒﾝﾄ板ｔ15張り（既 存）
シーリング：ポリサルファイド系（撤去再施工）
屋根：折板 H90 ｱﾙﾐﾒｯｷ鋼板 t0.6（既存のまま）（ﾎﾞﾙﾄﾚｽ工法）
吹き抜け
鉄骨現し：エポキシ樹脂塗り（塗装改修仕様）
ｼｬｯﾀｰBOX：ｴﾎﾟｷｼ樹脂塗り（塗装改修仕様）
バックヤード
洗 浄 室
ｺﾝｸﾘｰﾄ根巻 500角（既存のまま）
縦樋養生管：鋼管φ100 L=1200
ｴﾎﾟｷｼ樹脂塗り（塗装改修仕様）
床：ﾓﾙﾀﾙ鏝押え t20（既存のまま）
床仕上げ：抗菌剤配合厚膜型
ｴﾎﾟｷｼ樹脂系塗床仕上げ（防滑仕上げ）
ﾓﾙﾀﾙ金鏝押え t30 下地（既存）
▽水上
△水下
▽資材搬入側ＧＬ
配管ピット
(有) 沢田建築設計事務所
1級建築士事務所 登録 鳥取県第25-201号　1級建築士登録 第188531号　中野 充千俊
日付 14. 01. .
工事名 平成26年度 学校給食センター屋根等改修工事 工事設計図
図面名 矩　計　図　(2)　（改 修 図）
縮尺 1／30
図面番号 A 15 ／ 17

軒 先 納 め
1:10
カラーＧＬ鋼板 t0.35
ゴムアスルーフィング
構造用合板 t12
広木舞 15*90
ｽﾃﾝﾚｽｽｸﾘｭｰ釘 L=32
ｽﾃﾝﾚｽﾄﾞﾘﾙﾋﾞｽ L=45
軒先カッター剪り
既存屋根 ｽﾚｰﾄ平瓦
既存屋根下地 耐火野地板 t18
軒先唐草60
既存鼻隠し：防火ｻｲﾃﾞｨﾝｸﾞ t12 ２重張り
※ 水切りは、ｶﾗｰｶﾞﾘﾊﾞﾘｳﾑ鋼板 t0.4とする。
棟 納 め
1:10
棟包み260
桟木 30*105
ｽﾃﾝﾚｽｽｸﾘｭｰ釘 L=32
※横暖ルーフ端部を立上げ
ケミカル面戸
カラーＧＬ鋼板 t0.35
ゴムアスルーフィング
構造用合板 t12
ｽﾃﾝﾚｽﾄﾞﾘﾙﾋﾞｽ L=45
既存棟瓦 撤去
ゴムアスルーフィング
ケミカル面戸
既存屋根 ｽﾚｰﾄ平瓦
既存屋根下地 耐火野地板 t18
※ 水切りは、ｶﾗｰｶﾞﾘﾊﾞﾘｳﾑ鋼板 t0.4とする。
け ら ば 納 め
1:10
既存巴瓦 撤去
桟木 30*40
ｽﾃﾝﾚｽｽｸﾘｭｰ釘 L=32
※横暖ルーフ端部を立上げ
ケミカル面戸
ｽﾃﾝﾚｽｽｸﾘｭｰ釘 L=32
カラーＧＬ鋼板 t0.35
ゴムアスルーフィング
構造用合板 t12
ｽﾃﾝﾚｽﾄﾞﾘﾙﾋﾞｽ L=45
既存屋根 ｽﾚｰﾄ平瓦
けらば包み50
２重水切り 100
既存鼻隠し：防火ｻｲﾃﾞｨﾝｸﾞ t12 ２重張り
既存外壁：ｾﾒﾝﾄ中空板 t15、吹付ﾀｲﾙ
※ 水切りは、ｶﾗｰｶﾞﾘﾊﾞﾘｳﾑ鋼板 t0.4とする。
壁 取 合 い 納 め
1:10
既存外壁：ｾﾒﾝﾄ中空板 t15、吹付ﾀｲﾙ
壁水切り 105*70
桟木 30*90
※横暖ルーフ端部を立上げ
シーリング
カラーＧＬ鋼板 t0.35
ゴムアスルーフィング
構造用合板 t12
ケミカル面戸
ｽﾃﾝﾚｽｽｸﾘｭｰ釘 L=32
ｽﾃﾝﾚｽﾄﾞﾘﾙﾋﾞｽ L=45
既存屋根 ｽﾚｰﾄ平瓦
既存屋根下地 耐火野地板 t18
※ 水切りは、ｶﾗｰｶﾞﾘﾊﾞﾘｳﾑ鋼板 t0.4とする。
壁 取 合 い 納 め
1:10
既存外壁：ｾﾒﾝﾄ中空板 t15、吹付ﾀｲﾙ
壁水切り 105*70
桟木 30*90
ｽﾃﾝﾚｽｽｸﾘｭｰ釘 L=32
※横暖ルーフ端部を立上げ
シーリング
ケミカル面戸
カラーＧＬ鋼板 t0.35
ゴムアスルーフィング
構造用合板 t12
ｽﾃﾝﾚｽﾄﾞﾘﾙﾋﾞｽ L=45
既存屋根 ｽﾚｰﾄ平瓦
既存屋根下地 耐火野地板 t18
※ 水切りは、ｶﾗｰｶﾞﾘﾊﾞﾘｳﾑ鋼板 t0.4とする。
ベ ン チ レ ー タ ー 納 め
1:10
既設ベンチレーター：撤去再取付
1,200
850
250
既設架台：L-40*50*4
葺止め水切り
桟木 30*90
シーリング
ｽﾃﾝﾚｽｽｸﾘｭｰ釘 L=32
※横暖ルーフ端部を立上げ
ケミカル面戸
カラーＧＬ鋼板 t0.35
ゴムアスルーフィング
構造用合板 t12
ｽﾃﾝﾚｽﾄﾞﾘﾙﾋﾞｽ L=45
既存屋根 ｽﾚｰﾄ平瓦
既存屋根下地 耐火野地板 t18
ｶﾗｰｱﾙﾐﾒｯｷ鋼板 t0.6
(既存の上に重ね張り)
ゴムアスルーフィング
訂
正
(有) 沢 田 建 築 設 計 事 務 所
1級建築士事務所 登録 鳥取県第25-201号 1級建築士登録 第188531号 中野 充千俊
日付 14. 01. .
設計 所長 担当 製図
工事名 平成26年度 学校給食センター屋根等改修工事 工事設計図
図面名 部 分 詳 細 図
縮尺 1/10
図面番号 A 16 / 17

雑品庫
食品庫
冷蔵庫
冷凍庫
倉庫
検収室
プラットホーム
(資材搬入用)
プラットホーム
(給食車用)
SS：W4,000＊H2,500
洗浄室
ラウンドベアー
床点検口450＊450
ハシゴ付
片開き点検口450＊450
調理室
下調理処置室
前室
PS
女子WC
男子WC
廃油庫
廊下
残菜処理室
休憩室
監視室
機械室
湯沸室
書庫・OA室
事務室
EPS
玄関
身障者WC
倉庫（1）
階段室
歩道
スロープ
ポーチ
花壇（1）
花壇（2）
花壇（3）
花壇（4）
1階照明設備図　S＝1／150
凡例
床塗替え補修仕様
I 401　蛍光灯 40W×1 反射型　(撤去　取付金具交換後 再取付)
4E(E25)　VVF 2.0-2C×2　白ガス管A25配管　(撤去　取付金具交換後 再取付)
5E(E25)　VVF 2.0-2C+2.0-3C　白ガス管A25配管　(撤去　取付金具交換後 再取付)
6E(E25)　VVF 2.0-3C×2　白ガス管A25配管　(撤去　取付金具交換後 再取付)
アウトレットBOX　(撤去　取付金具交換後 再取付)
スイッチ　(既存のまま)
※ 配管は、錆止め塗装しSOP塗りして再取付する。又、外壁に取り付く配管も同様とする。
(有)沢田建築設計事務所
1級建築士事務所 登録 鳥取県第25-201号 1級建築士登録 第188531号 中野 充千俊
日付 14．01．
所長 担当 製図
工事名 平成26年度 学校給食センター屋根等改修工事 工事設計図
図面名 1階照明設備図
縮尺 1／150
図面番号 E 01／17